世界のあしたが見えるまち。

つくば中心市街地
まちづくりヴィジョン
資料編

目　次

◆中心市街地の現状 1
◇面積と人口 1
◇交通 2
◇商業・業務 3
◇公共施設 3
◇住宅 4
◇歩行者通行量 5
◇歩行者・自転車交通量 6
◆策定経過 7
◆市民意向の把握 8
◇つくば中心市街地を魅力ある街にするためのアイディア募集 9
◇中心市街地のまちづくりに関する意向調査（従業者対象） 11
◇中心市街地のまちづくりに関する意向調査（居住者対象） 13
◇中心市街地まちづくりビジョン オープンハウス 15
◇（参考）来街者アンケート調査 19
◆つくばまちづくりシンポジウム 21
◇シンポジウムの記録 22
◇参加者の声 39
◆パブリックコメント 40
◆参考資料　市民意向の把握に使用した様式 41

❖ 中心市街地の現状

現状分析にあたっては、春日一丁目、吾妻一～三丁目、竹園一～二丁目、東新井の区域を中心市街地として設定し調査を行った。

◇ 面積と人口

・中心市街地の面積は市域の約 1 %、人口は約 5 %を占める。
・つくば市の人口は増加傾向にあり、平成 47 年（2035 年）をピークに減少に転じる見込みであるが、中心市街地の人口は平成 19 年以降減少傾向に転じている。
・中心市街地の高齢化率は低く、平成 15 年時点では 2%未満であったが、近年は増加傾向となっている。

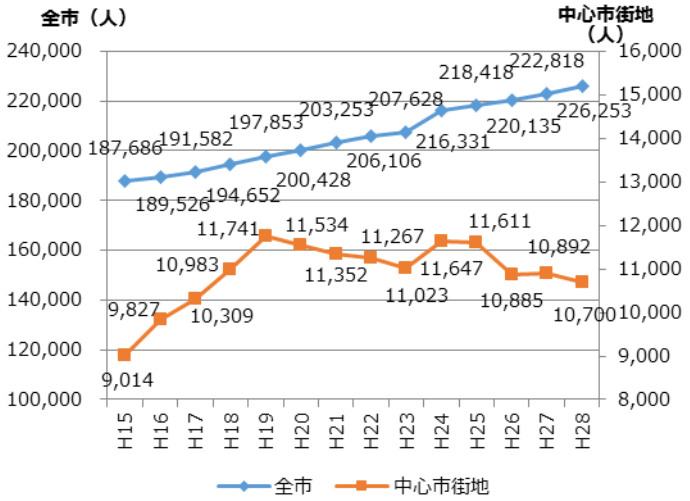
◇中心市街地の区域

◇中心市街地の面積・人口

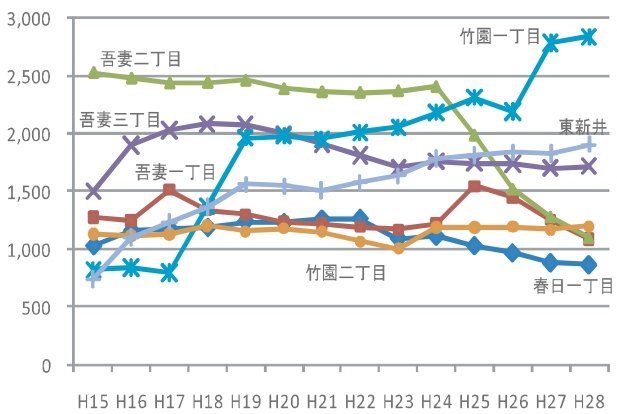
	つくば市	中心市街地
面　積	284.1 k㎡	2.31 k㎡ (0.81%)
人　口	226,253 人	10,700 人 (4.7%)

（ ）は全市に占める割合
※人口はいずれも住民基本台帳による（H28.10 時点）

◇つくば市及び中心市街地の人口の推移

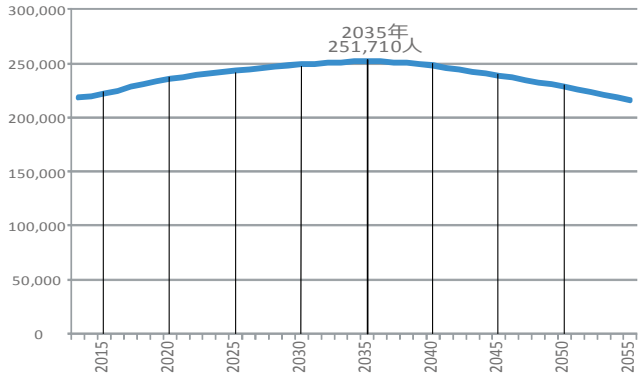


◇中心市街地 地区別人口の推移



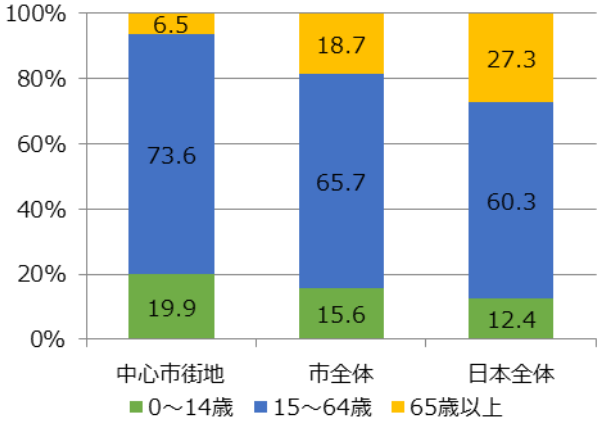
※人口はいずれも住民基本台帳による（H28.10 時点）

◇つくば市の将来人口予測

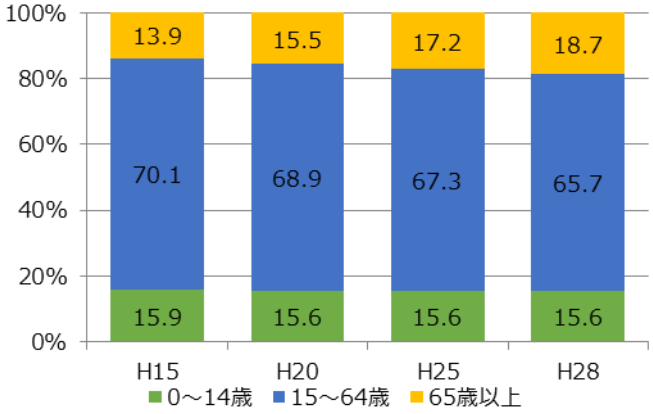


※つくば市未来構想
住民基本台帳や茨城県の人口動態統計などを基に、主にコーホート要因法を用い人口定着率を中位（70%）水準として推計

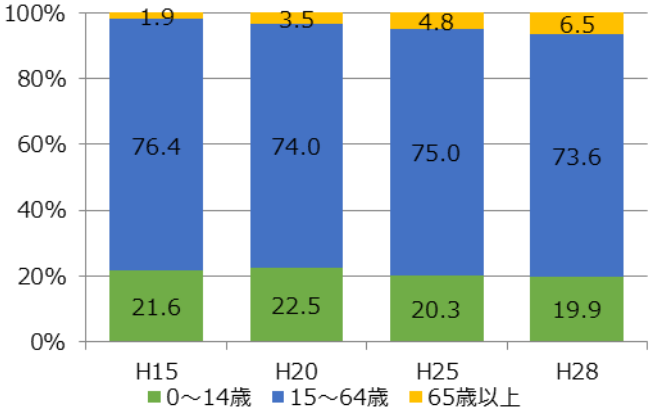
◇年齢別人口の割合



◇つくば市　年齢別人口割合の推移



◇中心市街地　年齢別人口割合の推移

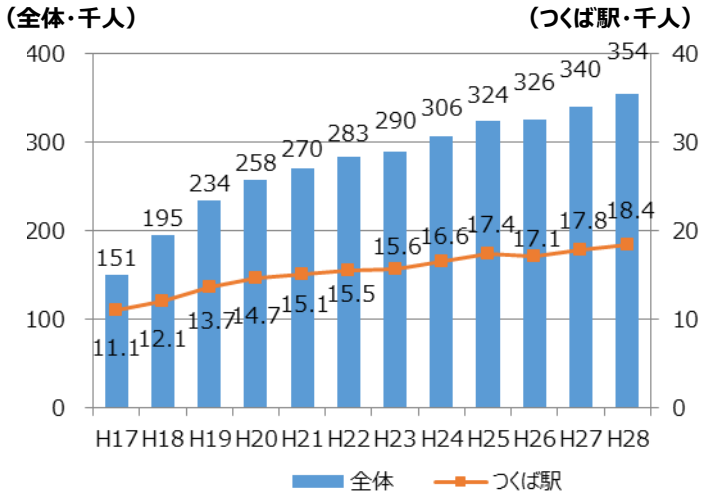


※人口割合はいずれも住民基本台帳による（H28.10 時点）

◇交通

・つくば駅の乗車人員は一日約 1 万 8 千人、バス利用者は約 1 万人である。
・つくば駅の乗車人員、つくバス利用者数ともゆるやかな増加傾向にある。

◇つくばエクスプレス乗車人員の推移



※首都圏新都市鉄道(株)

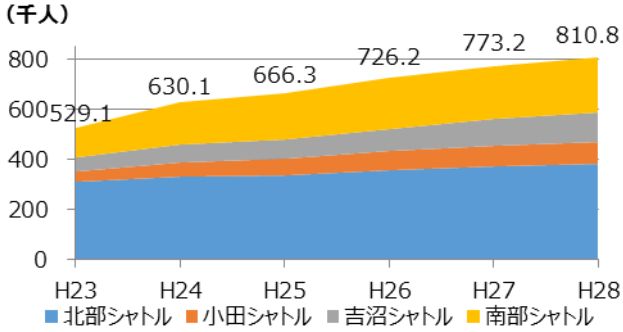
◇つくばセンターバス利用者数

	路線数	1日発着数	1日利用者数
路線バス	28路線	525本	8,018人
つくバス	4路線	226本	1,849人

路線数及び発着数：路線バス H27.11、つくバス H28.10
利用者数：路線バス H27.6 平日、つくバス H27.6 平均

※つくば市、関東鉄道

◇つくバス利用者数の推移（つくばセンター発着路線）

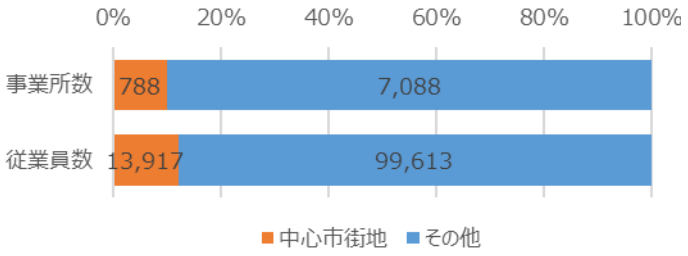


※つくば市総合交通政策課作成

◇商業・業務

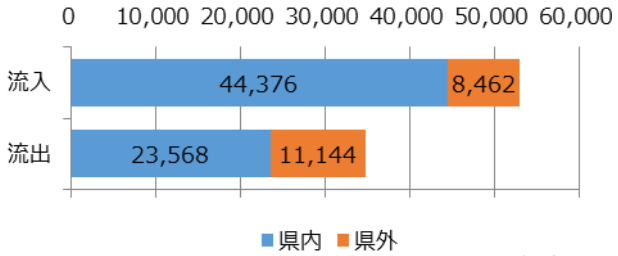
・中心市街地には、市内の事業所・従業員数の約 1 割が集まっている。
・通勤・通学者数は、流出が約 3 万人に対し流入が約 5 万人と流出を上回っており、8 割以上が県内からの流入である。

◇つくば市内事業所数・従業者数



※経済センサス（H24 時点）

◇通勤・通学の市内外への流出入



※国勢調査（H22 時点）

◇中心市街地の大規模商業施設

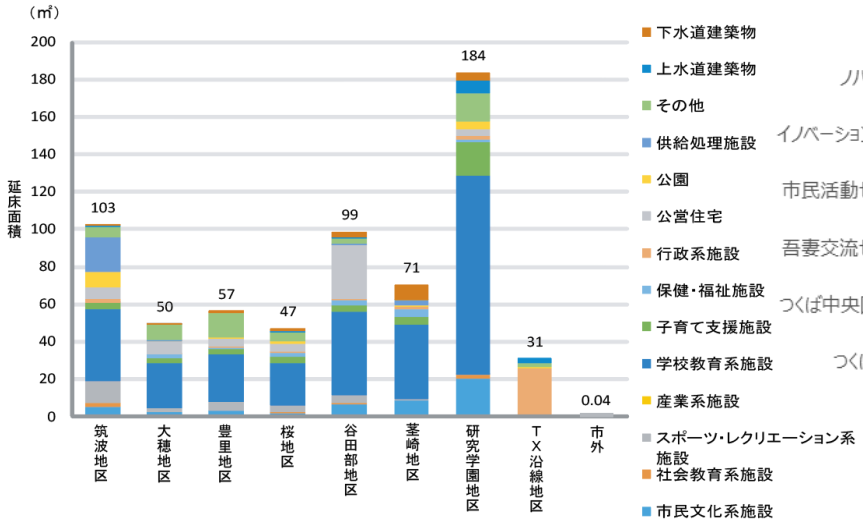
施設名	延床面積（届出面積）
つくばクレオスクエア（MOG除く）	81,890㎡
デイズタウンつくば	28,100㎡
ヨークタウンつくば	9,752㎡
ライトオンつくば本店	10,750㎡
Ｂｉｖｉつくば	8,573㎡
カスミフードスクエア学園店	2,716㎡
ゲオつくば学園店	1,494㎡
茨城トヨタ自動車つくば中央店	2,227㎡
合計	145,502㎡

※大規模小売店舗立地法の届出状況（H28 時点）

◇公共施設

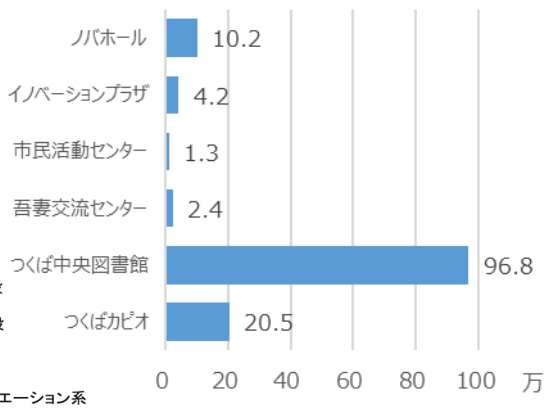
・市内の公共施設は、研究学園地区内に多く集積している。
・中心市街地で最も利用者が多いのは図書館で、年間約 100 万人に利用されている。

◇市内公共施設の地区別延床面積



※つくば市公共白書（H27 版）

◇主な中心市街地の公共施設利用者数

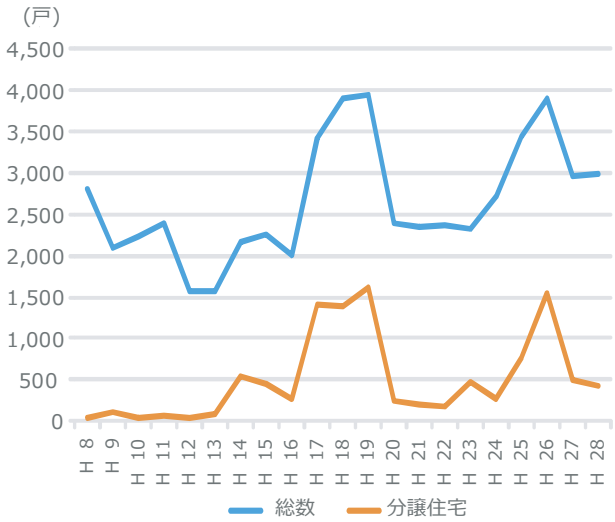


※つくば市公共白書（H27 版）

◇住宅

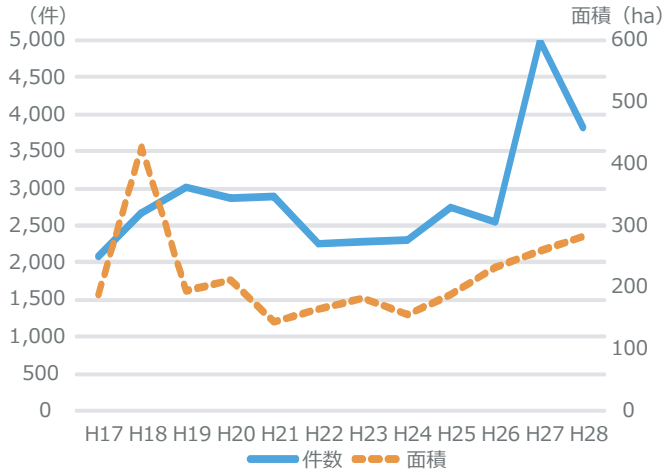
・市内の住宅着工戸数は、平成 17 年のつくばエクスプレス開通前後に急激に増加し、その後も一定の供給が行われている。
・中心市街地では、平成 15 年度より民間集合住宅の供給が活発化し、平成 28 年度までに約 2,500 が供給されている。

◇つくば市内住宅着工数



※住宅着工統計
分譲住宅は戸建住宅、集合住宅の数

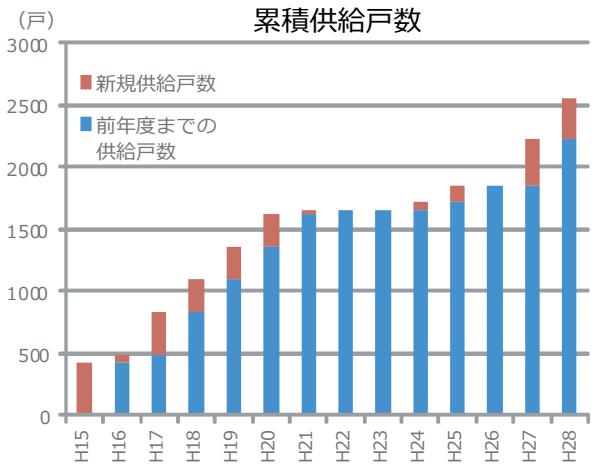
◇つくば市内土地取引件数と面積



※国土交通省土地取引規制基礎調査
概況調査

◇中心市街地、竹園・吾妻東部エリアの集合住宅建設状況

※つくば市学園地区市街地振興室作成



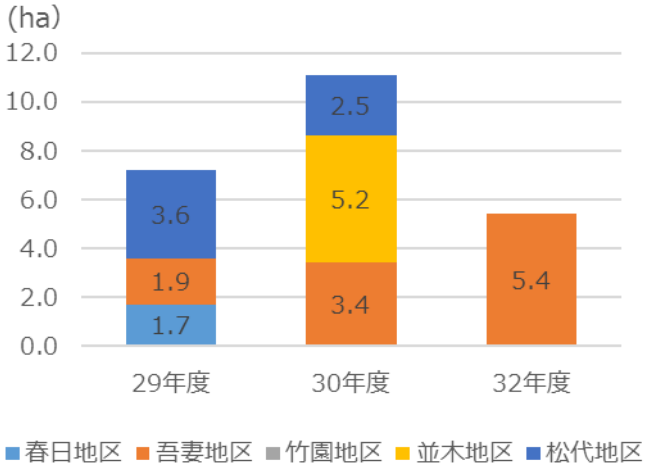
※つくば市学園地区市街地振興室作成

◇公務員宿舎等跡地開発状況

	売却街区数	従来の戸数	開発後の戸数
吾妻地区	3街区	415戸	189戸
竹園地区	8街区	704戸	750戸
並木地区	13街区	682戸	823戸
松代地区	5街区	216戸	239戸
合計	29街区	2,017戸	2,001戸

※つくば市学園地区市街地振興室（H29.10 時点）

◇今後売却される国家公務員宿舎面積

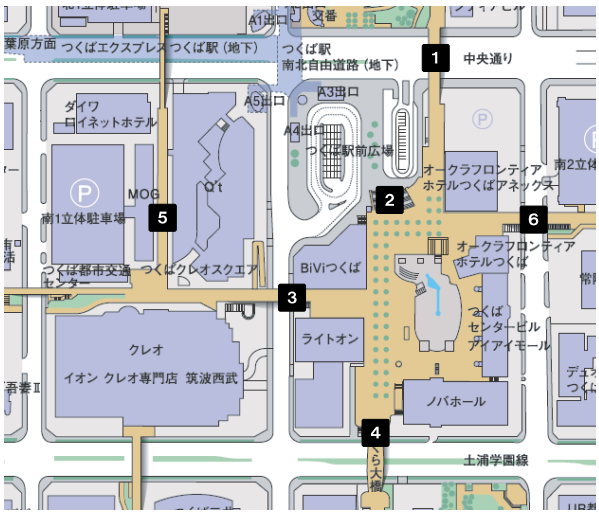


※つくば市学園地区市街地振興室作成（H29.10 時点）

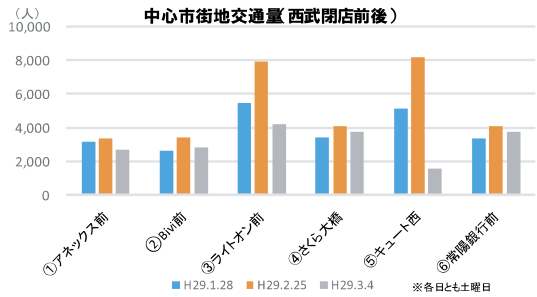
◇歩行者通行量

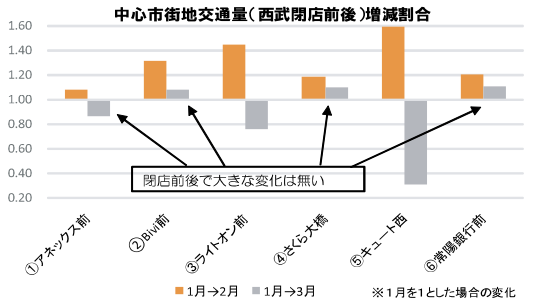
・歩行者交通量は、西武筑波店の閉店前と後で、キュート西側及びライトオン前で減少しているが、その他の箇所では大きな変化はなく、駅前広場からセンター広場へ向かう通行量は増加している。

◇西武筑波店閉店前後の歩行者自転車交通量



※筑波大学調査。調査時間 10 時から 17 時





◇歩行者・自転車交通量（H8・H23～29）

・歩行者・自転車の合計の交通量（7 時から 19 時までの 12 時間調査）
・平成 8 年のみ調査方法が異なる
・平成 8 年度が空欄の調査地点は、平成 8 年度には調査を行っていない
・各年 10 月頃の木曜日と土曜日に調査

※つくば都市交通センター

❖ 策定経過

	実施時期	各種会議	市民参加	内容
平成29年	6月27日(火) ～7月30日(日)		中心市街地 アイディア募集	• 中心市街地での取り組みのアイディア等を広く募集
	6月29日(木)	つくば市立地適正化計画実務担当者会議（第2回）		• ㈱つくば中心市街地まちづくりビジョンについて
	7月7日(金)	つくば中心市街地関係者会議（第1回）		• 中心市街地のまちづくりビジョンについて • 中心市街地の現状について
	7月27日(木)	つくば中心市街地事業者等との意見交換会（第1回）		
	8月8日(火)	つくば中心市街地関係者会議（第2回）		• 中心市街地の各施設の状況について • 市街地の今後の方向性について
	8月25日(金) ～9月24日(日)		中心市街地従業者アンケート	• 中心市街地従業者の日常行動、中心市街地への意見の把握
	9月14日(木) ～10月9日(月)		中心市街地居住者アンケート	• 中心市街地居住者の日常行動や、中心市街地への意見の把握
	9月21日(木)	つくば市立地適正化計画検討委員会（第3回）		• ㈱つくば中心市街地まちづくりビジョンについて
	11月14日(火) ～11月29日(水)		中心市街地まちづくりビジョンオープンハウス	• 中心市街地の今後のまちづくりへの意見募集
	12月21日(木)	つくば市都市計画審議会		• 中心市街地まちづくりビジョンの策定について
平成30年	2月19日(月)	立地適正化計画及び中心市街地まちづくりビジョン実務担当者会議		• 中心市街地まちづくりビジョンの策定に係る事業調査について
	5月20日(日)		つくばまちづくりシンポジウム	• まちづくりヴィジョン（素案）の発表 • 市民との意見交換
	5月21日(月) ～6月15日(金)		つくば中心市街地まちづくりヴィジョン（案） パブリックコメント	• まちづくりヴィジョン（案）への市民意見募集
	6月4日(月)	つくば市都市計画審議会		• つくば中心市街地まちづくりヴィジョン（案）について

❖ 市民意向の把握

中心市街地のヴィジョンの作成にあたり、広くアイディア募集を行うとともに、居住者や従業者、来街者のへのアンケート調査を行い、中心市街地の利用に係る状況や望む機能、まちづくりへの意見の把握を行いました。

調査	実施概要
つくば中心市街地を魅力ある街にするためのアイディア募集	調査方法：Web（いばらき電子申請・届出サービス）を利用した記述式のご意見募集 調査期間：平成 29 年 6 月 27 日（火）～平成 29 年 7 月 30 日（日） 回 答 数：252 件（市内 81%、県内他市町村 10%、県外 9%）
中心市街地のまちづくりに関する意向調査 （中心市街地従業者対象）	調査対象：つくばセンター地区活性化協議会会員事業所にお勤めの方 調査方法：つくばセンター地区活性化協議会事務局を通じて会員に依頼し、WEB で回答 調査期間：平成 29 年 8 月 25 日（金）～9 月 24 日（日） 回 答 数：34 件
中心市街地のまちづくりに関する意向調査 （中心市街地居住者対象）	調査対象：中心市街地にお住まいの方（天久保一丁目、春日一丁目、吾妻一～三丁目、竹園一～二丁目、東新井） 調査方法：全戸にアンケート実施のお知らせをポスティングし、WEB で回答 調査期間：平成 29 年 9 月 14 日（木）から 10 月 9 日（月） 回 答 数：580 件
中心市街地まちづくりビジョンオープンハウス	実施対象：オープンハウス（つくばイノベーションプラザ）来場者、つくば市ホームページへの投稿者等 実施方法：中心市街地に関する様々なデータや今後の考え方等を提示し、次の方法で意見を収集 Ａ）場所毎の意見募集 ①白地図・付箋 ②QR コード Ｂ）自由意見募集 ③会場御意見 BOX ④市ホームページ 実施期間：平成29年11月14日（火）～平成29年11月29日（水） 意 見 数：①373 件 ② 35 件 ③146 件 ④11 件

◇ つくば中心市街地を魅力ある街にするためのアイディア募集

つくば中心市街地まちづくりビジョンの作成にあたり、市民に限らず多くの皆さまから様々なアイディアを頂き、参考にするため、中心市街地でどのような取組みを行うと良いかなどのアイディア募集を行いました。

調査概要

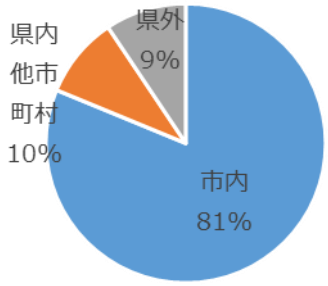
調査方法：Web（いばらき電子申請・届出サービス）を利用した記述式のご意見募集

調査期間：平成 29 年 6 月 27 日（火）～平成 29 年 7 月 30 日（日）

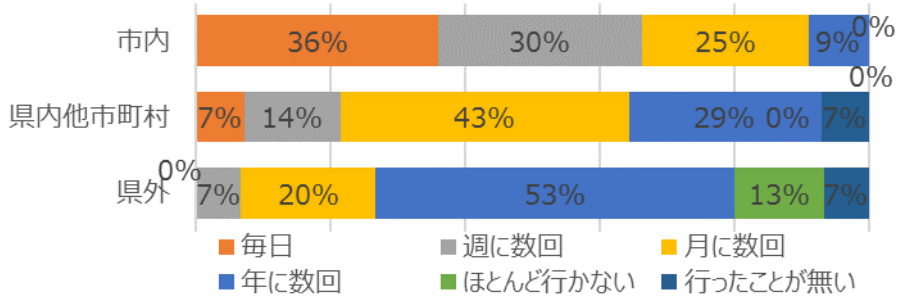
回 答 数：252 件（市内 81%、県内他市町村 10%、県外 9%）

回答者の属性

◇ 回答者の住まい（問２）



◇つくば駅周辺への来訪頻度（問３）



調査結果概要（問４　自由記述）

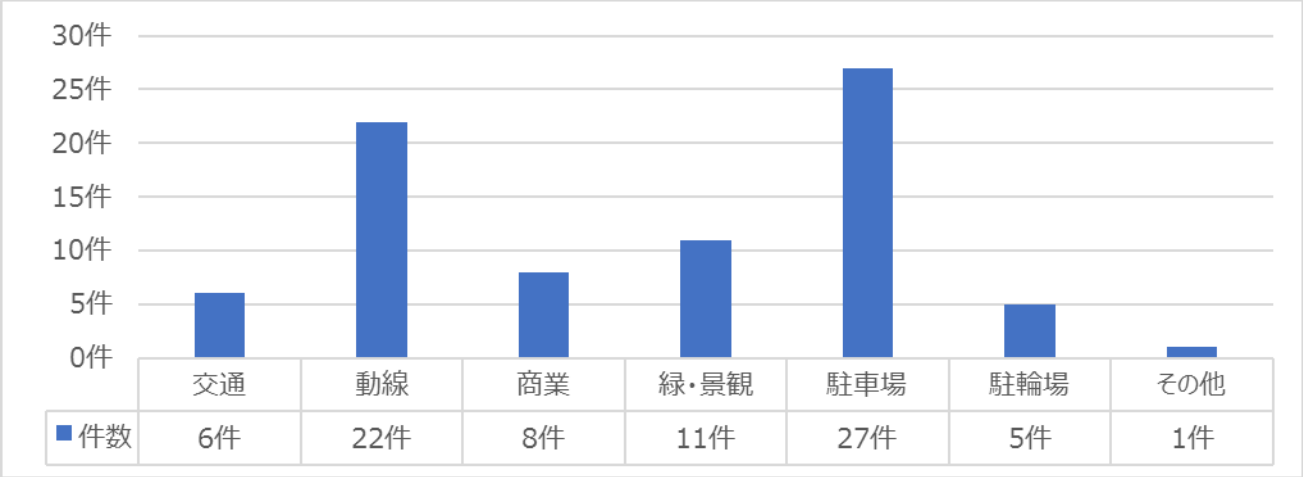
◇ 中心市街地に欲しい施設

・全体的には、文化・運動施設や商業施設、子育て施設を望む意見が多く寄せられた。
・具体の施設としては、文化・運動機能ではアリーナや本屋、図書館など、子育て機能では子どもが遊べる屋内・屋外の施設、商業機能では百貨店や贈答品、総菜店などの西武百貨店が閉店したことにより不足している施設が多くあげられた。
・その他、高齢者と子どもの居場所や市の窓口、業務機能、ホテルなどの意見があった。

機能	件数	欲しい施設
文化・運動機能	85 件	アリーナ、巨大自習施設、本屋、漫画館、アイススケートリンク、図書館との複合施設、サイクリング施設、温浴施設　等
商業機能	84 件	気軽に買える服屋、大型店（家具や文具等）、百貨店、デパートコスメ、贈答品販売、amazon 実店舗、カフェ、野菜直売、フードメゾン、ミニシアター、惣菜店、パン屋、商店街、軽食　等
子育て機能	52 件	大人も子供も一日遊べる施設、学校、屋内型遊び場　等
交流活動機能	16 件	老人と子供・中高生の居場所、フューチャーセンター、福祉センター、障害をもつ子どもの施設、デイサービス　等
行政機能	14 件	市役所分室、市営住宅、県庁移設、免許センター　等
業務機能	14 件	インキュベーション施設、外資系、本社機能、高層ビル、研究所のサテライト　等
その他	45 件	ハイクラスのホテル、宿泊施設、カプセルホテル、リゾート施設、場外馬券売り場、住宅分譲、犬の施設、若者向けの施設、撮影スタジオ　等

◇ 中心市街地における課題

・駐車場や動線に関する課題が多くあげられた。
・駐車場については、車で来にくい、無料時間が短い、駐車場が使いにくいなどの意見を頂いた。
・動線については、駅が地下、ペデが２階という構造上の問題点や歩道の段差、商業施設との連続性の欠如などを指摘する意見が多く見られた。



◇　中心市街地で今後すべき取り組み

・交通に関する意見が多かったが、つくばの特徴である科学技術を活かす取組みやペデを街の軸に考えるなど様々な提案を頂いた。
・イベントでは講演の活用や朝市、子どもが遊べる動物イベントなどの提案、科学・ロボットを活かした取組みでは、ロボットでの案内やロボットを街中で歩かせるなど、筑波研究学園都市ならではの提案を頂いた。
・制度等への対策では、子育て支援をするための仕組みや SNS を活用した情報発信、デザイン計画の見直し、ペデを中心にまちを考えるなどの多くの意見を頂いた。
・交通では、無料バスや LRT、バス網の整備、TX の延伸など公共交通の充実への意見を多く頂いたほか、使いやすい駐車場の整備やカーシェア、自転車道、レンタサイクルなど、様々な交通手段を利用できるようにするための提案を頂いた。

	件数	すべき取り組み
イベント（○○フェスタ等）	33 件	公園でのイベント、朝市、ジャズフェス、外国イベント、動物イベント　等
科学・ロボットを活かした取組	38 件	科学や宇宙を活かす、野生のロボットを放つ　等
制度等への対策	58 件	子育て支援、図書館の返却を各駅から、移住促進、SNS を活用したアンケート、ペデを軸に考える　等
交通への提案	65 件	無料バス、LRT、地下の発達、駐車場整備、TX の県内延伸、路面電車、カーシェア、モノレール、明るい歩道　等
その他	6 件	花を植える、民間資金の投入　等

◇ 中心市街地のまちづくりに関する意向調査（中心市街地従業者対象）

つくば中心市街地まちづくりヴィジョンの作成にあたり、中心市街地で働いている方の日常行動や現在のまちづくりへの課題、今後の中心市街地についてどのように考えているかを把握するため、アンケートを実施しました。

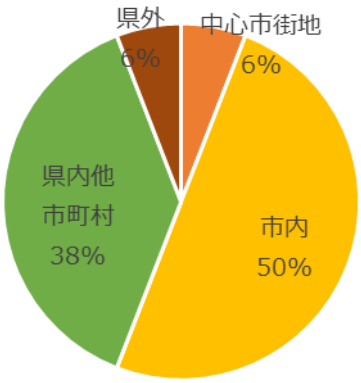
調査概要

調査対象：中心市街地で働いている方（つくばセンター地区活性化協議会会員）
調査方法：つくばセンター地区活性化協議会事務局を通じて会員に依頼し、WEB で回答
調査期間：平成 29 年 8 月 25 日（金）～9 月 24 日（日）
回 答 数：34 件

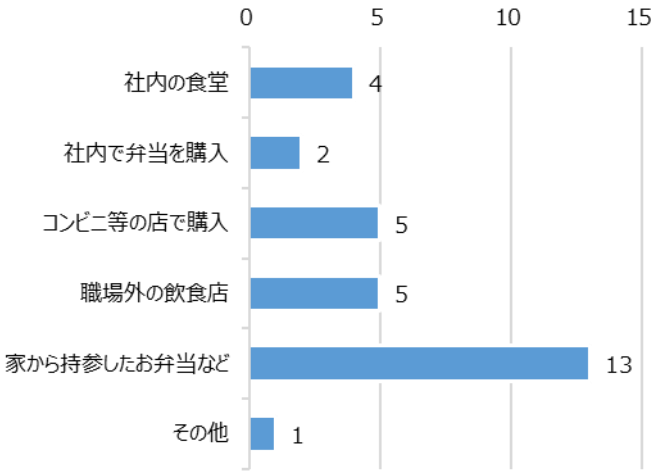
調査結果概要

- つくば駅周辺の商業施設で一定頻度買い物しているとの回答を得たが、平日のランチは弁当を持参している方が多く、日用品の買い物は自宅近くで買い物するなど、日常的に買い物等はしていない。
- 現在利用している施設はクレオスクエアなどの民間施設が多くあげられたが、公共施設は少なかった。
- 現在の中心市街地の課題としては、にぎわい不足に関する意見が多くあげられた。
- 今後の中心市街地のあり方は、にぎわいがあるまちを目指すべきと答えた方が多い。

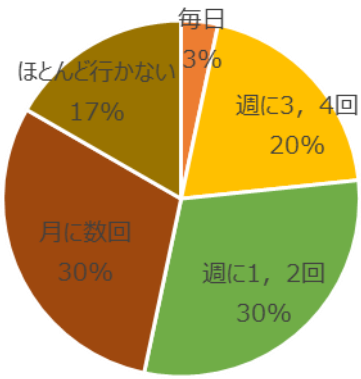
◇ お住まいの地域（問３）



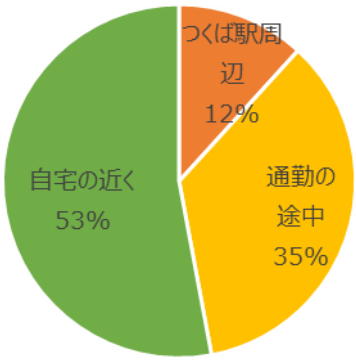
◇ ランチの場所（問４）



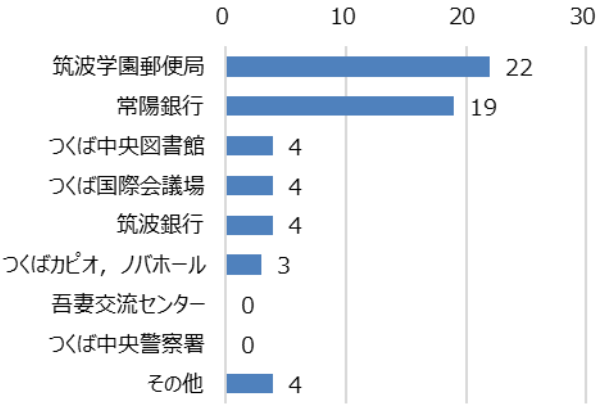
◇ 職場周辺での買い物（問６）



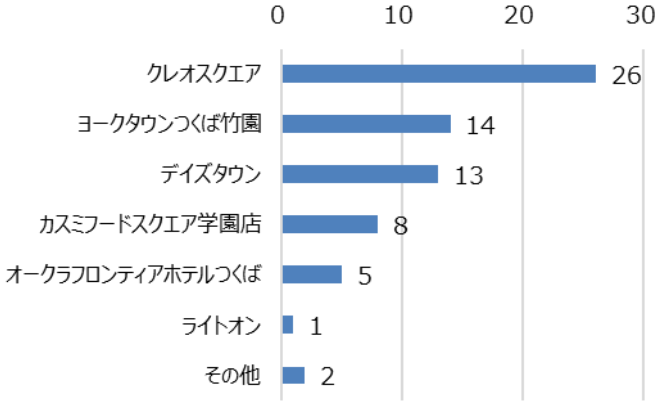
◇ 日用品の買い物場所（問７）



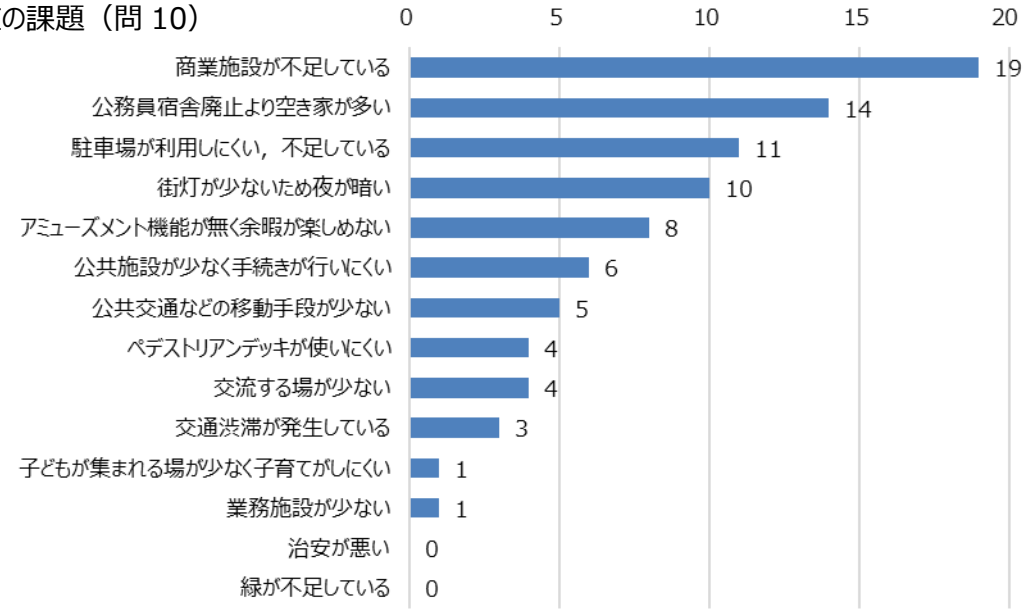
◇　つくば駅周辺で利用する公共公益施設（問８）



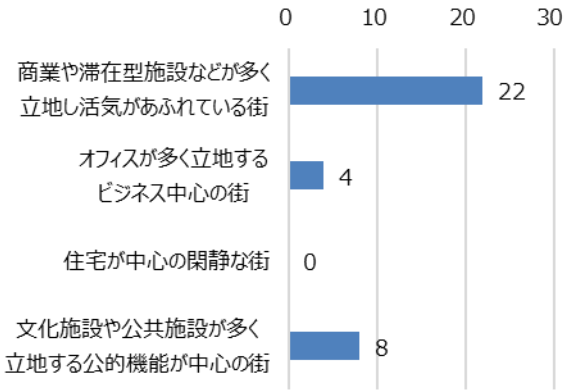
◇　つくば駅周辺で利用する民間施設（問９）



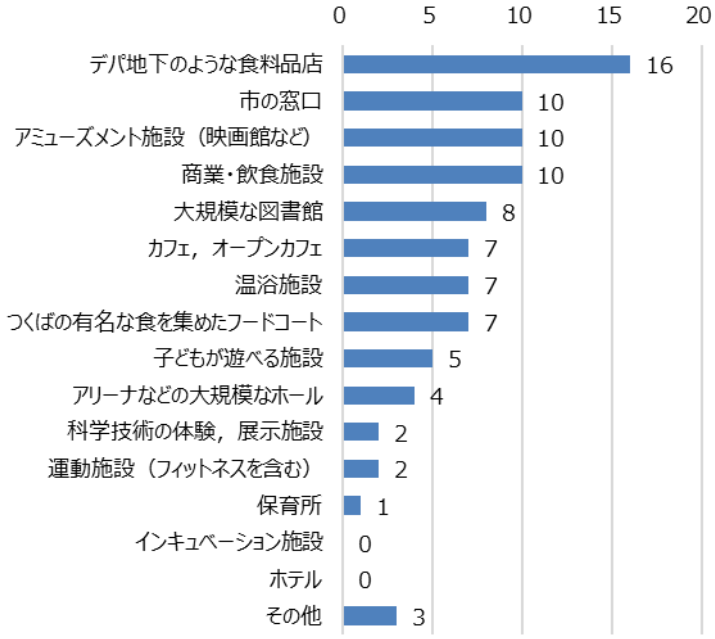
◇　中心市街地の現在の課題（問 10）



◇　中心市街地の今後の役割（問 11）



◇　中心市街地にほしい施設（問 12）



◇ 中心市街地のまちづくりに関する意向調査（中心市街地居住者対象）

つくば中心市街地まちづくりビジョンの作成にあたり、中心市街地にお住まいの方の日常行動や現在のまちづくりへの課題、今後の中心市街地についてどのように感じているかを把握するため、アンケートを実施しました。

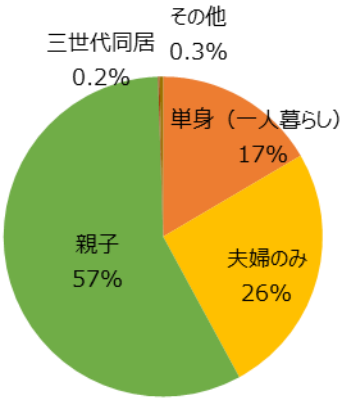
調査概要

調査対象：中心市街地にお住まいの方（天久保一丁目、春日一丁目、吾妻一～三丁目、竹園一～二丁目、東新井）
調査方法：全戸にアンケート実施のお知らせをポスティングし、WEB で回答
調査期間：平成 29 年 9 月 14 日（木）から 10 月 9 日（月）
回 答 数：580 件

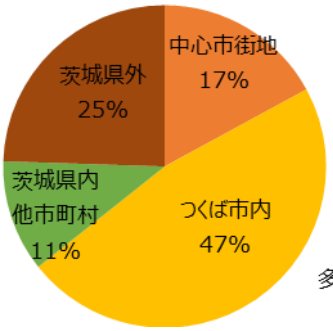
調査結果概要

- 現在の住まいは、交通や日常生活の利便性が高いことから選んだ方が多い。
- 買い物などの日常行動は、日用品の買い物や余暇は中心市街地を利用している方が多いが、買回り品は研究学園駅周辺を利用している方が多い。また、買回り品と余暇は東京都に行く方も多い。
- 中心市街地の良い点として、交通の利便性や緑豊かな居住環境をあげる方が多い。
- 中心市街地の課題としては、商業施設の不足や公務員宿舎等の空き家が多いことをあげている方が多い。
- 今後の中心市街地のあり方は、活気があるまちを望んでいる方が多い。今後ほしい施設は、商業系の施設をあげた方が多いが、市の窓口や図書館などの公共施設をあげる方も一定程度存在する。

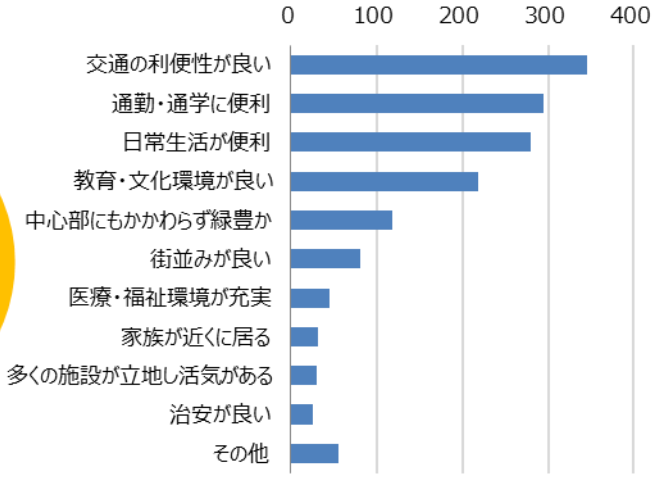
◇ 家族構成（問 2）



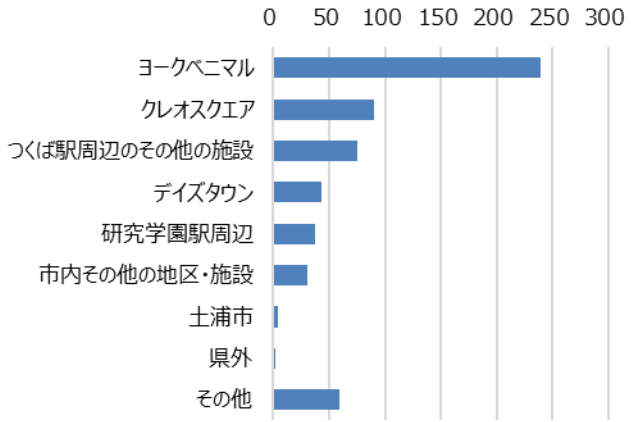
◇ 勤務地（問 4）



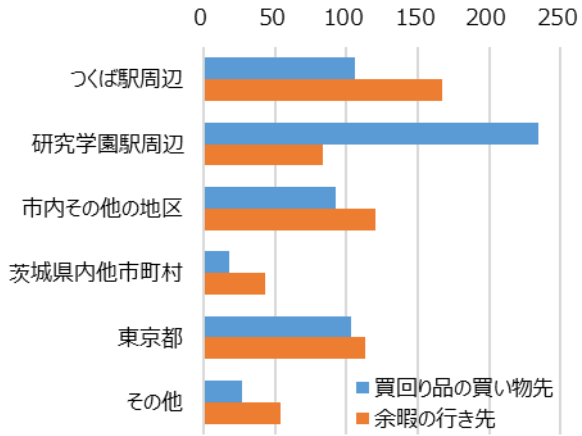
◇ 今の地区を住まいに選んだ理由（問 6）



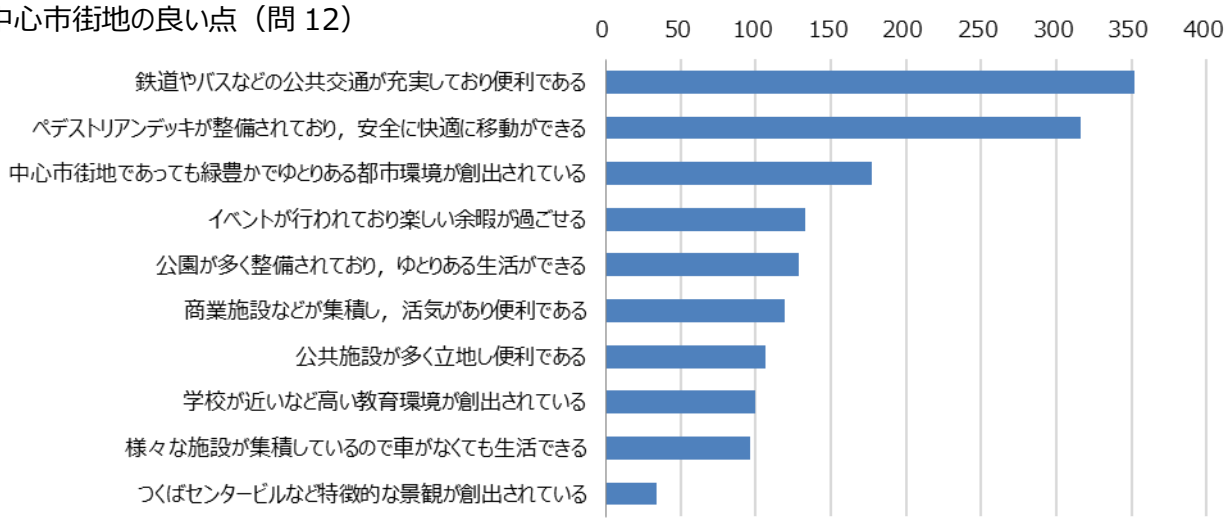
◇ 日用品の買い物先（問 7）



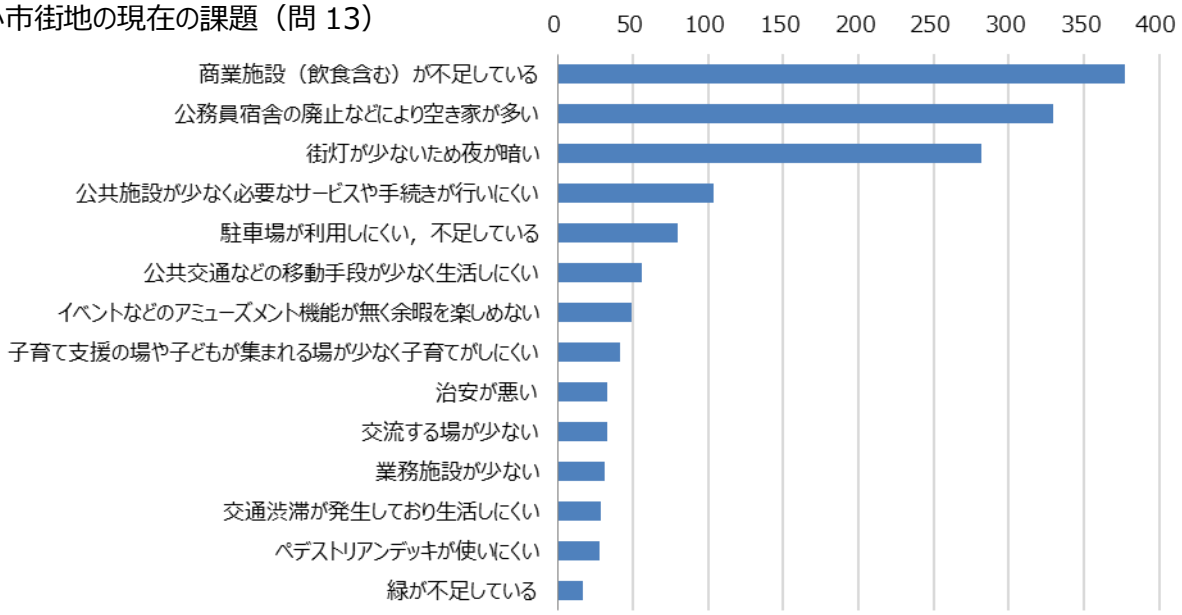
◇ 買い回り品・余暇の行き先（問 8・問 9）



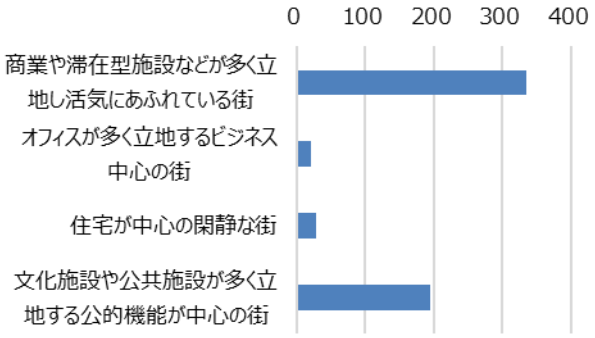
◇　中心市街地の良い点（問 12）



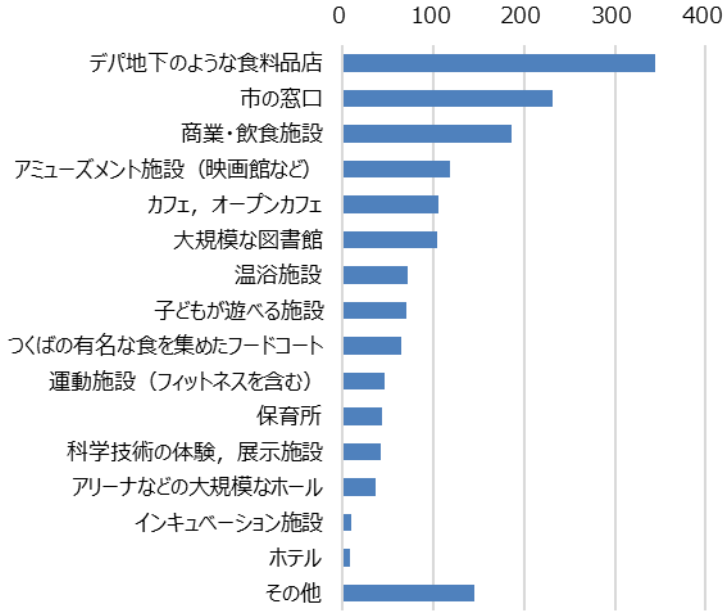
◇　中心市街地の現在の課題（問 13）



◇　中心市街地の今後の役割（問 14）



◇　中心市街地に今後ほしい施設（問 15）



◇中心市街地まちづくりビジョン　オープンハウス

つくば中心市街地まちづくりビジョンの作成にあたり、中心市街地に関する様々なデータや今後の考え方などの資料を提示し、今後のまちづくりについての意見を募集するオープンハウスを開催しました。

調査概要

実施対象：オープンハウス（BiVi つくばイベントスペース）来場者、つくば市ホームページへの投稿者等

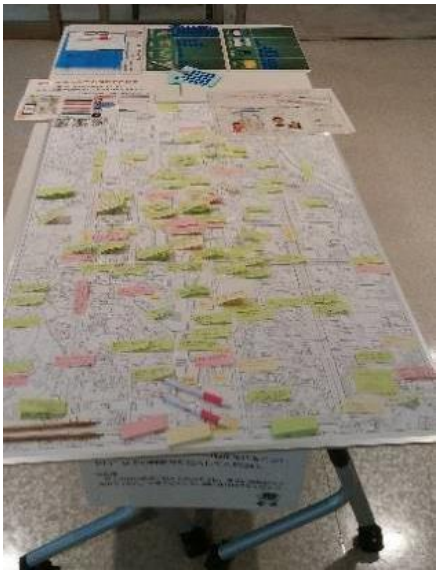
実施期間：平成 29 年 11 月 14 日（火）～平成 29 年 11 月 29 日（水）

実施方法：中心市街地に関する様々なデータや今後の考え方等を提示し、次の方法で意見を収集

A）場所毎の意見募集　①白地図・付箋　②会場掲示 QR コード

B）自由意見募集　③会場設置御意見 BOX　④市ホームページ

意 見 数：①373 件　②35 件　③146 件　④11 件

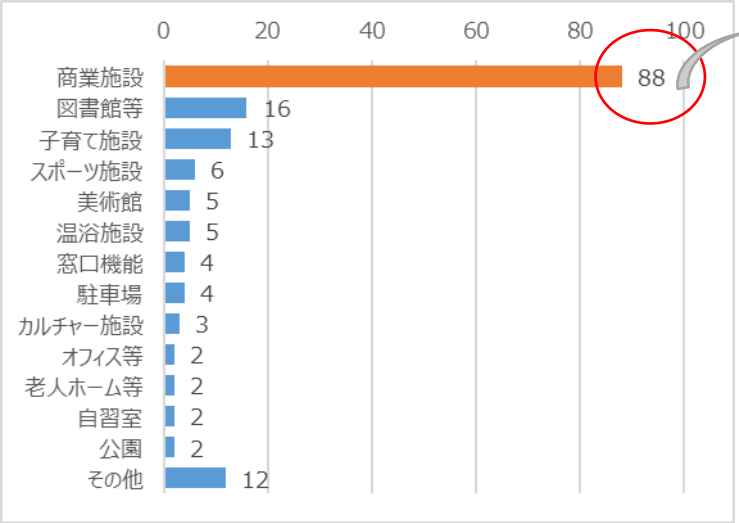


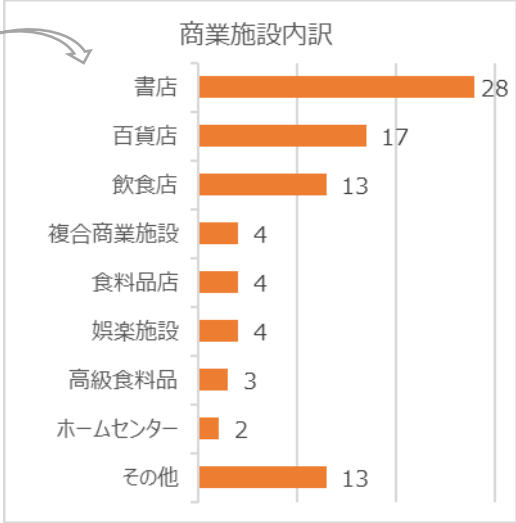
調査結果概要

【白地図と付箋による意見募集】（373 件）

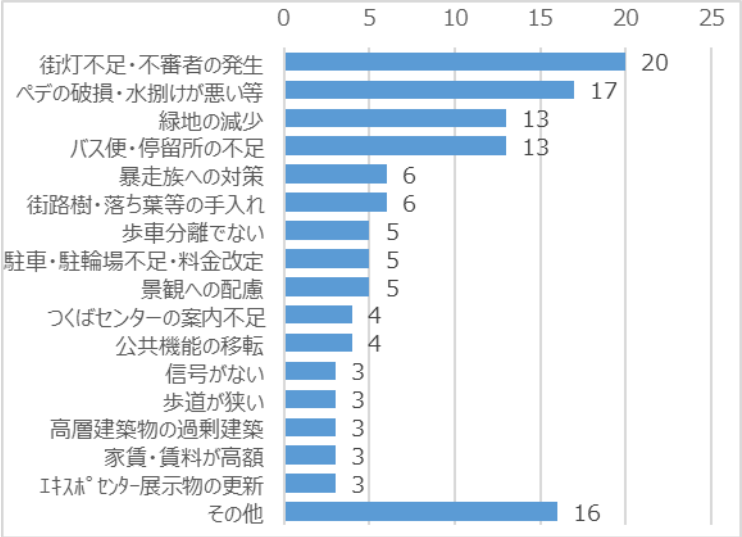
中心市街地の白地図に、来場者が付箋に意見を記入し該当する場所に貼付

◇施設の希望 164 件

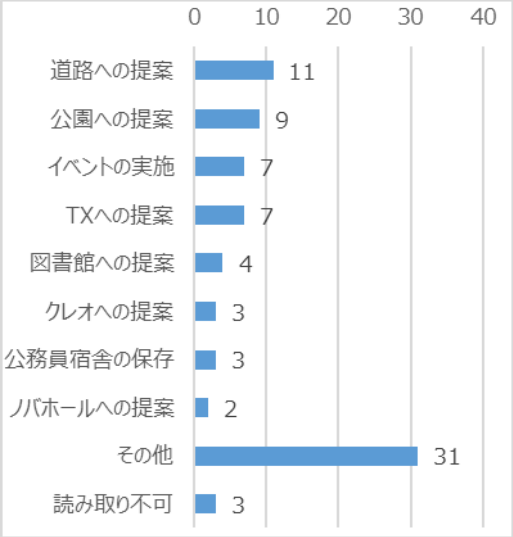




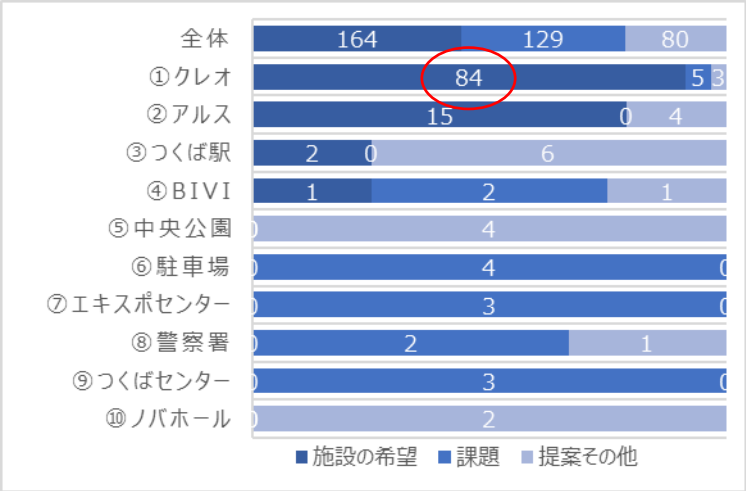
◇中心市街地の課題 129 件

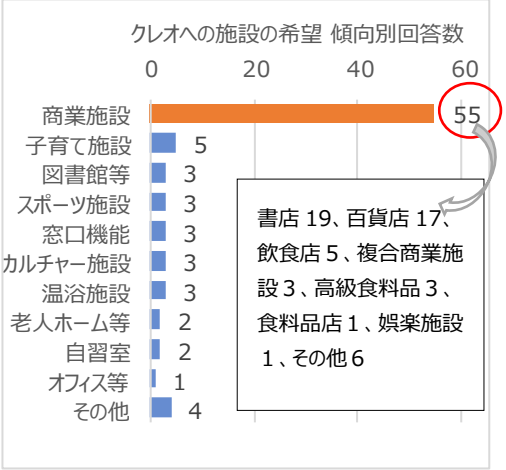


◇中心市街地への提案その他 80 件

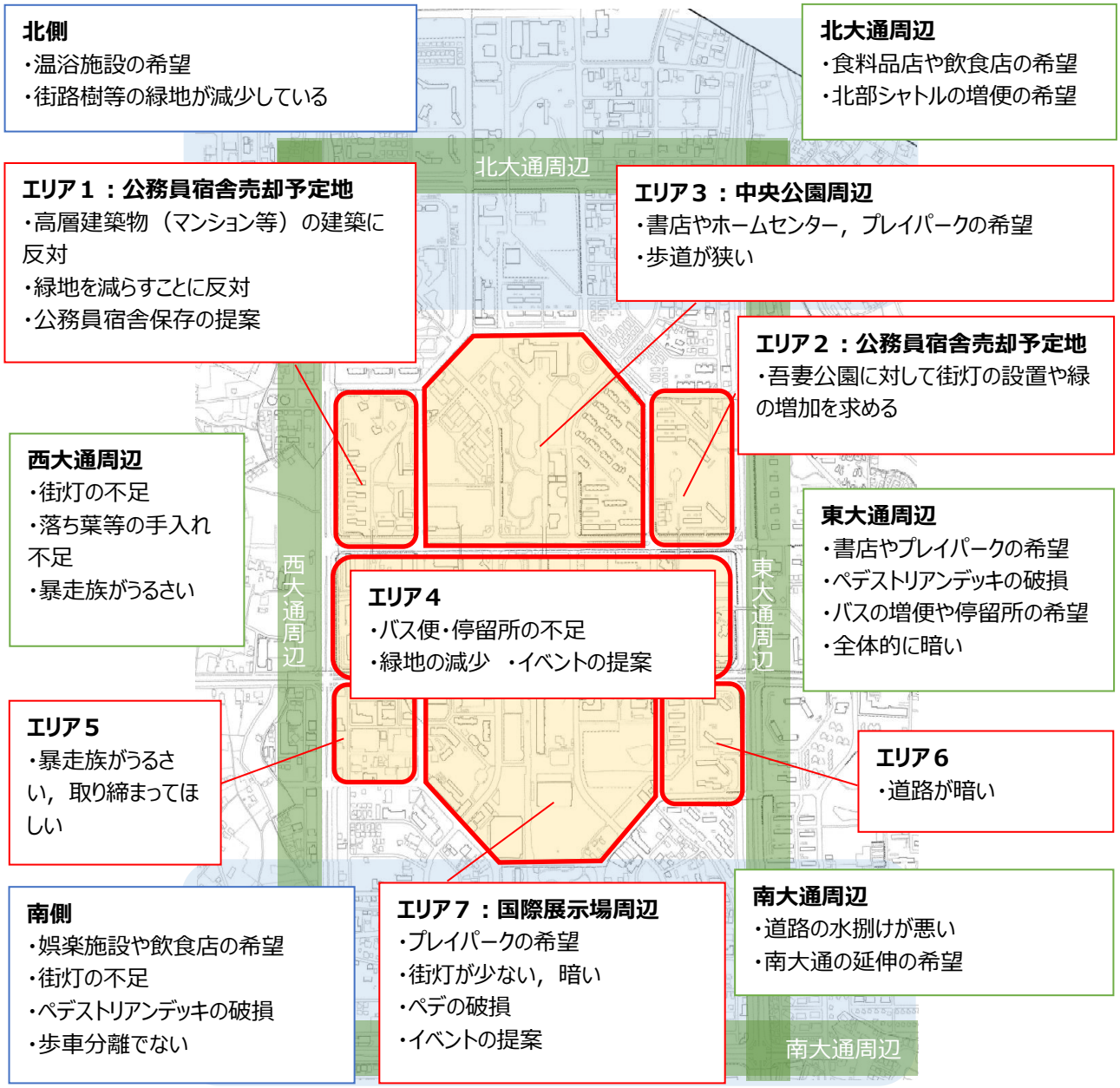


◇施設別意見





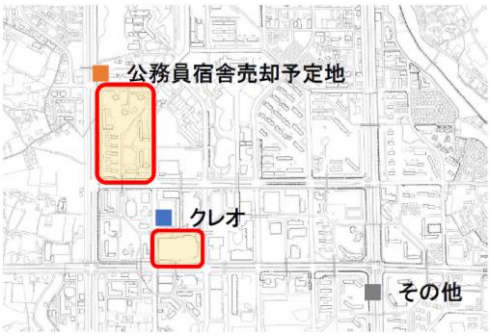
◇　エリア別意見



【会場内掲示 QR コード】（35 件）

場所	意見数	意見の概要
クレオ	14	キッザニア、複合施設（本屋・映画館等）、複合施設（TeNQ等）、本屋、デパ地下、スーパー銭湯、保育所、ミュージアム、デパート
公務員宿舎売却予定地	12	森林、動物園、遊園地、住宅、高齢者住宅、保育所、オフィス街、バードサンクチュアリ、商業を含むタワーマンション
その他	9	本屋、大学誘致、複合施設（TeNQ等）、公園の遊具の交換、生活利便施設の維持、オフィス街、研究所の分所

中心市街地の以下の３か所にQRコードを設定し、場所ごとに回答を整理



【会場内設置御意見 BOX】 （146 件）

◇ 施設の希望

施設	意見数	意見の概要
商業施設	17	専門書等の多い書店、デパート、贈答品・高級品店、地元産を扱う店、高級衣類を取り扱えるクリーニング店、食料品店、車いすやベビーカーに対応できるカフェ 等
子育て支援施設	2	子供が遊べる屋内施設、子供と入りやすい飲食店 等
オフィス	2	研究学園駅周辺が商業中心になりつつあり、中心部は業務地区にしないと厳しいのではないか、ベンチャー企業のオフィス 等
福祉施設	2	就労支援や高齢者等の活躍の場を含む総合福祉会館、高齢者サロンや健康相談室 等
その他	13	ネットカフェ、交流施設、JRの駅、市役所の出張所、お土産屋、市営斎場、公衆浴場、博物館、中高一貫校、美術館 等

◇ 中心市街地の課題

課題	意見数	意見の概要
交通関連	10	駐車場の料金が高い、バスの延伸や増便、TXの運賃が高い、つくば市から他の県内地域に移動しづらい 等
道路が暗い	9	自転車走行中に歩行者が見えない、街灯が少ない、夜道が危険 等
動線・ペデ関連	7	駅から各施設へのアクセスが不便、駐車場へのアクセスが不便、まち全体の高低差が多い、タイルが割れている 等
図書館関連	4	もっと充実したものに、貸出システムの近代化や運営の民間委託の提案、手狭 等
その他	6	暴走族の騒音、公務員宿舎が閉鎖されている、上品すぎる、幼稚園に入れない 等

◇ 中心市街地への提案その他

提案その他	意見数	意見の概要
まちづくりへの提案	18	研究学園駅との役割分担が必要、歩いて生活できるように、幅広い世代が集う場所に、世界の未来が見えるための具体的な展開 等
クレオの再生について	14	全世代・障害者も過ごせる場に、人が集まる場所に、市役所を移動してはどうか、部分貸ししてはどうか 等
景観への提案	9	集合住宅を計画的に美しく、景観を誘導する仕掛け作り、歩いて楽しい街、落ち着いた雰囲気を壊さない、歩道をアスファルトにしない 等
科学のまちのPR、核となる施設	9	科学都市ならではの施設、ロボットや宇宙をテーマにした施設、エキスポセンターと研究所の連携、県外でもつくば＝科学のイメージ 等
緑地の保全	8	緑多いつくばに惹かれて住んでいる、緑地が減りつくばらしさを失う、樹木がなくなると東京近辺でどこにでもある街になる 等
まちのコンセプト	4	コンセプトを一つに絞る必要はないのではないか、福祉、県南地域の商業の中心 等
オープンハウスについて	4	担当者の駐在期間が少ない、駐車場が有料、自治会の回覧板を利用すべき 等
その他	8	中央警察署の移転反対、周遊バス・路面電車の導入、屋根付きのイベントスペース 等

【市ホームページ】 （11 件）

	意見の概要
中心市街地の課題	・市街地が無計画に広がりすぎている　・図書館の近くに無料の駐車場が必要 ・役所の窓口機能がない ・中心市街地の居住区は住民が流動するような賃貸にすべき ・バス交通の定時運行ができていない。戸建住宅のゴミ集積所が遠く渋滞している 等
中心市街地への提案その他	・大学の教養課程や予備校、市立図書館やカフェ、保育園や児童館、本屋が必要 ・筑波山麓などを整備して観光に力を入れてはどうか ・コミュニティガーデンの活動について、撤退したのは勿体なかった ・文化施設を拡充し、文化面を強調して再整備すべき ・子ども図書館を含む子育て支援施設を駅前に ・車いす・ベビーカー利用者が入りやすいカフェ等を ・大型商業施設は飽和気味なので、大型展示施設や宿泊施設、会議室等としては ・駅前が閑散としている。できれば百貨店の誘致を　等

◇（参考）来街者アンケート調査

センター地区における歩行者等の動態及び来街頻度や印象を把握するため、来街者アンケート調査が行われました。

※本調査は、「つくば市と一般財団法人つくば都市交通センターとの相互協力の促進に関する基本協定書」にもとづき一般財団法人つくば都市交通センターが実施したものです。

調査概要

調査方法：中心市街地の 3 地点に調査員を配置し、通行者にアンケートを依頼（回答者による直接記入）

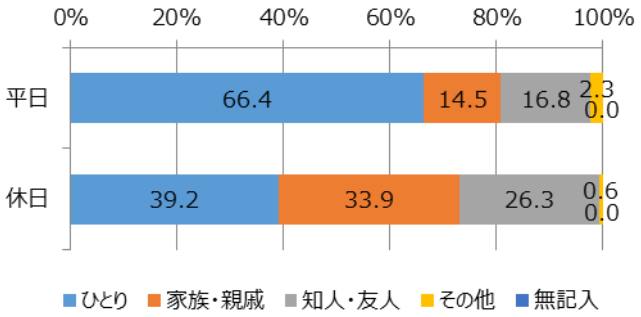
調査箇所：①センター広場　②クレオスクウェア周辺　③つくば駅南北自由通路

調査日時：平成 29 年 9 月 21 日（木）・平成 29 年 9 月 23 日（土）　10 時～16 時（6 時間）

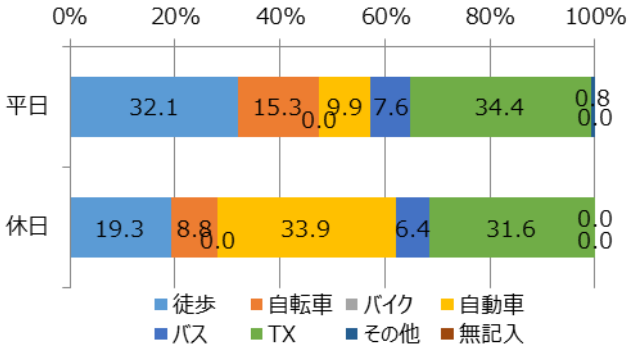
回 答 数：302 件（平日 131 件、休日 171 件）

調査結果概要

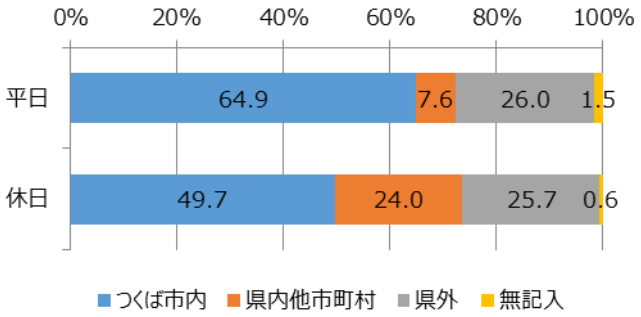
◇　同行者



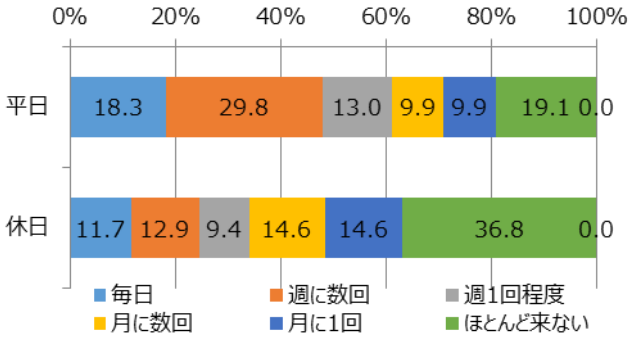
◇　交通機関



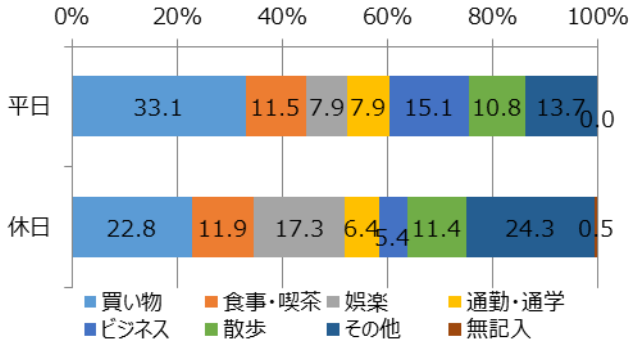
◇　居住地



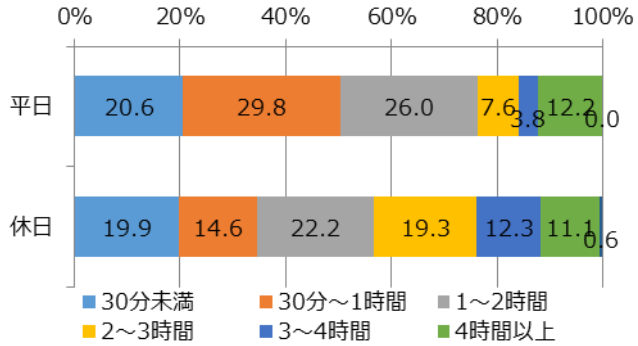
◇　来街頻度



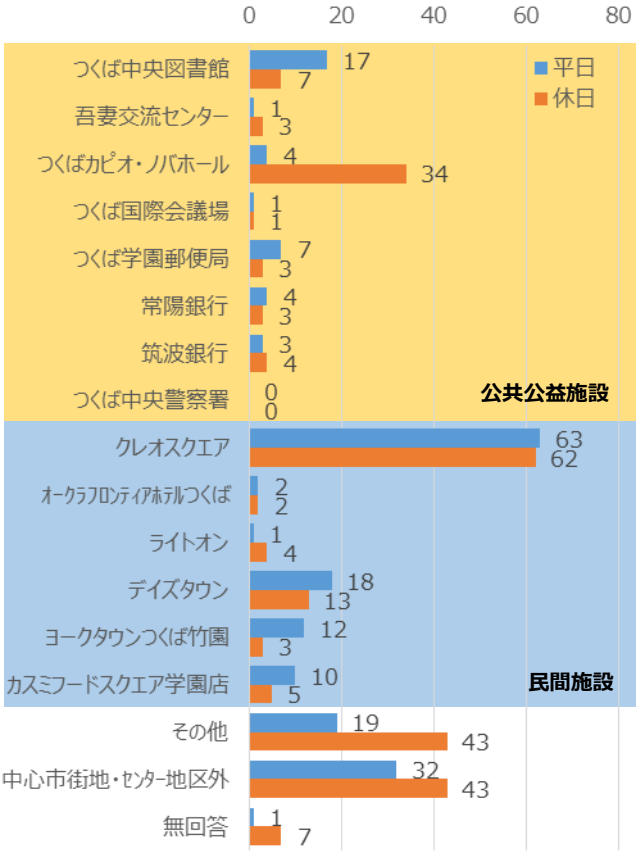
◇　来街目的



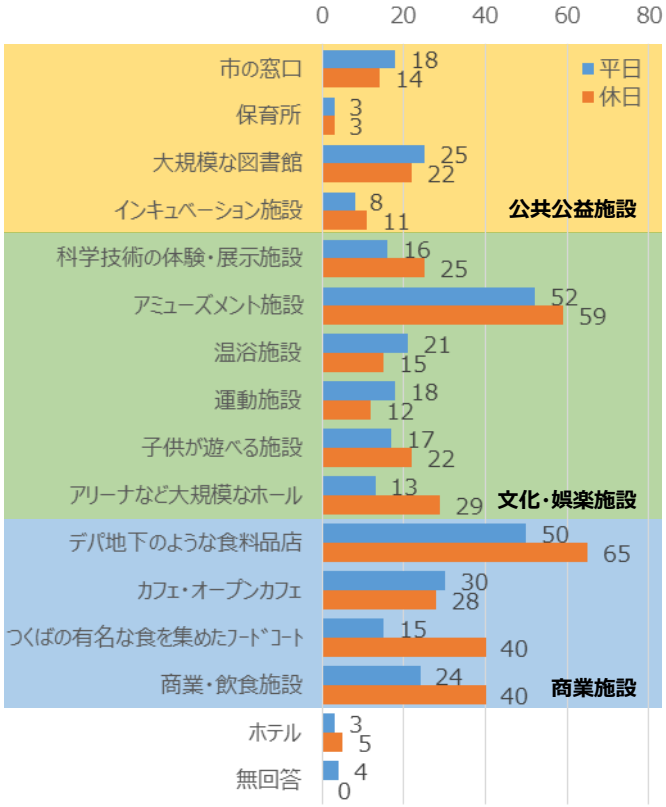
◇　センター地区での滞在時間



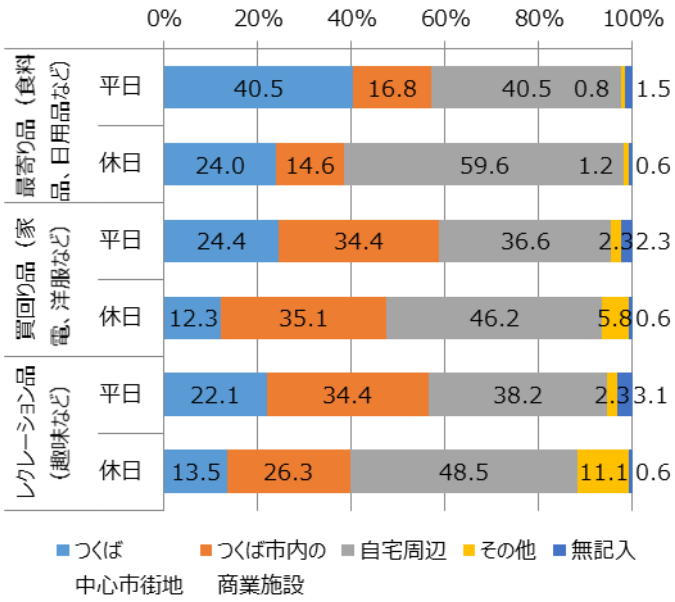
◇　中心市街地の立ち寄り施設（アンケート調査日）



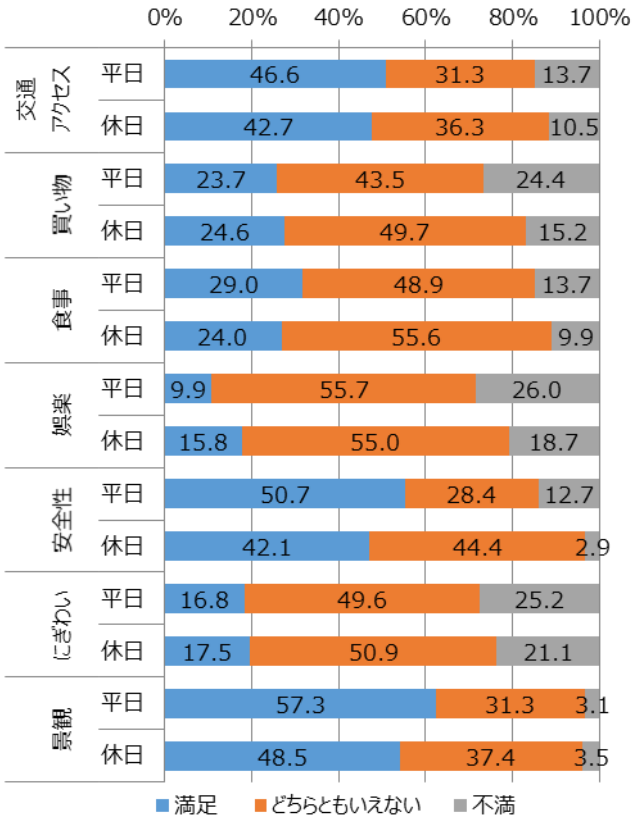
◇　つくば中心市街地に来たくなるような施設



◇　よく買い物に行く場所



◇　つくば中心市街地の満足度



❖ つくばまちづくりシンポジウム　ー中心市街地のヴィジョンを考えようー

開催概要

日　時：平成 30 年 5 月 20 日（日）13:30～15:20

会　場：つくばイノベーションプラザ 3 階大会議室

参加者：105 名

プログラム：

【第 1 部】

・「世界のあしたが見えるまち」の中心市街地を目指して

五十嵐　立青　つくば市長

・ポートランドのまちづくりについて　―COMPACT　CITY　PORTLAND―

つくば市まちづくりアドバイザー、前ポートランド市開発局国際事業開発オフィサー　　山崎　満広　氏

・中心市街地の現状について

筑波大学システム情報系准教授　藤井　さやか　氏

【第 2 部】

会場からのコメントカードをもとに中心市街地のヴィジョンを語る

山崎　満広　×　五十嵐　立青　×　藤井　さやか（モデレーター）

五十嵐　立青　つくば市長

山崎　満広　氏

藤井　さやか　氏

◇シンポジウムの記録

第一部

（司会）

つくばまちづくりシンポジウムー中心市街地のヴィジョンを考えようーを始めさせていただきます。本日、司会進行を務めさせていただきます、つくば市都市計画部次長の菊池と申します。よろしくお願いします。

本日は、つくば市まちづくりアドバイザーで前ポートランド市開発局国際事業開発オフィサーの山崎満広さん、筑波大学システム情報系准教授の藤井さやか先生、そして五十嵐立青つくば市長が会場のみなさまと中心市街地について考えて参ります。

お手元の次第にあります通り、2 部構成となっております。第 1 部といたしまして五十嵐市長、山崎アドバイザー、藤井先生から、それぞれテーマに沿ったお話をさせていただきます。

その後 10 分間休憩をはさみまして、第 2 部といたしまして藤井先生にモデレーターをお願いいたしまして、会場のみなさまからのコメントをもとに山崎アドバイザー、五十嵐市長が意見交換をしていくという形式で行ってまいりたいと思います。全体の終了は 15 時 15 分を予定しております。

本日、資料としましては 4 種類、次第とヴィジョン案、アンケート用紙、あともう一つ、不思議なカードが置かれていますが、このコメントカードにつきましては後ほど市長の話の後で別途説明させていただきます。

アンケート用紙に関しましては進行中、全体終了後にご記入いただいて、後、回収させていただきますのでよろしくお願いします。それではお待たせしました。さっそく第 1 部に入らせていただきます。

はじめに、五十嵐立青つくば市長から「世界のあしたが見えるまち」の中心市街地を目指して、をテーマにお話させていただきます。五十嵐市長、よろしくお願いします。

（五十嵐市長）

こんにちは。今日はすごくいい天気で。本当にご参加ありがとうございます。

今日、お話ししたいことは 5 つあります。

読んでいると時間がなくなってしまうので端折りますが、何かというと、筑波研究学園都市の設計の頃から今に至るまでの流れを押さえておくことはまちづくりにおいてすごく大事だと思っていまして。その上で今日、皆様のお手元にお配りしているヴィジョンについてお話ししたいと思っています。

このヴィジョンというのはあくまで案ですので、今日、いろんな意見をいただければ、それをちゃんと反映させていきたいと思っていますし、役所っぽくアリバイ作りみたいに意見聞いて何も変えませんなんてことはありませんので、積極的な意見交換が出来ればと思っております。それをコメントカードに書いていただくことになっておりますので、ぜひ参加型というか、皆さんと一緒にこのヴィジョンを作っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

今日は専門家もたくさん来ていて、いい加減なことをいうとつっこまれそうでやりづらいんですが、簡単に中心市街地がどんなふうに移り変わってきているかを話していきます。

1963 年に研究学園都市の建設について、55 年前にさかのぼるわけですが、半世紀以上経っている。そのあと研究学園都市建設法という法律に基づいてこのまちは作られている訳ですけれど、そこに書いてあったのが、試験研究と教育をしていくんだと、さらに首都圏の混雑緩和などもやっていくんだということが書いてあるんですね。

1980 年におおよそ移転が完了しました。つくば万博が開幕し、1987 年につくば市が誕生。当時は 3 町村、翌年筑波町が加わって 2002 年に今のつくば市になる、そういう流れがありました。この頃のことは私には分かりません。この頃つくばにいらっしゃった方、いらっしゃいますか？

（会場：手が挙がる）

谷田部に住んでいらっしゃんたんですね。どうですか？今の移り変わりを見て。感じることは？

（回答：それなりに）

それなりに発展して今がある。ありがとうございます。その中で中心市街地が変化してきているわけですね。TX ができて発展しているようでありながら、周りにショッピングモールができることによって動きが出てきた。さらに公務員宿舎の廃止が決まって空洞化していく懸念。西武が撤退し、イオンが撤退し、なんと今日はシェーキーズが閉店するという。我々はこの変化を受けとめなくちゃいけないんですね。私がいつも言っているのは、確かにさびしい。西武は僕が小 1 の時にできたんですけど、ほんとにすごい賑やかでした。だけどなくなったんですよね。シェーキーズも大好きでした。友達と何枚食べられるか競い合ったりして。でもこの流れに逆らえない。行かなかったから撤退するわけだし。時代のニーズに合わなくなったから動いていくわけで。ノスタルジーにとらわれているだけでは前に進めないと思うんです。

2018 年の今のつくばがどういう状況にあるのか。さらに 2030 年にどこに向かうのか、もっと先、どこに向かうのかという、現状を踏まえて、過去のおさらいをしながら未来に向かっていくというヴィジョンがやっぱり必要なんじゃないかと思ってヴィジョンをつくっていこうというわけです。研究学園、万博記念公園、みどりのとは違うのが、つくば駅周辺。ペデもある、オープンスペースもある、緑もある、このエリアを金太郎飴にしてはいけない、という思いがきっと皆さん強い。じゃあ、そういう場所をどういう風にしていくんだということをみんなで議論したいなと思うんですね。

なぜかというと今回改めて研究学園都市建設法であったり、計画であったりを全部見ました。そのあといろんなヴィジョンが発表されたりもしているんですけれど、どれもよくできている。でも何が足りないのか。これは『研究学園地区まちづくりビジョン』ですが、すごくよくできている。でもめくっていくと何が足りないのかわかったんですね。ここに使われている写真にほとんど人が写っていないんですよ。人が写っているのはまつりつくばの写真くらいなんですね。計画としてはよく作られている。あまり細かいところまでは書き込まれていないですけれど、そこでどんなことがあるのか、そこで何をしているのか、というものが見えてこない。なんでそういうことになったかというと、作る過程において、当然国が造ってくれたまちですよ、どこまで行っても 2.6 兆円、国が下駄をはかせてくれたまちなわけで、これは事実ですね。そのうえでいろんな関係者が知恵を出し合いながら積み上げてきたまちなんですけれども、その計画づくりであったり、ヴィジョンづくりにこうやって皆さんが一緒になってこのヴィジョンを描きましたかっていうことが欠けていた部分なのかなっていうことは感じています。

そういうことでいろんな意識調査をしました。市民アンケートをやったり、オープンハウスをやったり。実際に職員も行ってあーだこーだ希望描いてもらったり。あとで筑波大学の藤井先生にお話ししてもらいますけれど、交通量調査ですとか、そういうこともやりました。そういう中で今回お示ししているのがヴィジョンなんですね。超素案を皆様のお手元にお配りしていますけれども、すごくふわっとしている。これから発表するのはイメージなんですね。山崎さんにいろいろアドバイスを頂きながらこのヴィジョンの位置づけというのを整理しています。

三段階あります。今回はヴィジョン。こんなまちだったらいいな。ここに行ったらこんなことができる、そういうことがわかるものであってほしい。そういうイラストであったり、映像であったり。センター地区のどこで何をするという話ではなくて、つくばの中心地区がこんなまちであったらいいなというものをビジュアル化したものが今回のヴィジョンです。抽象的とみなさん感じるかもしれませんが、我々が目指している、こういうまちで行きたいという方向性を示している。

次の段階で何を決めるか。これだけじゃまちづくりできませんから、目標の設定をしていきたい。戦略を作っていきたい。例えば中心市街地の人口って目標何人にするの？そこで働いている人の人数、何人くらいを目指すの？環境に配慮した建物、どれくらいにするの？地元の食材を使ったレストラン、何軒くらいあるの？そういう目標を定めていきたい。

そういう目標をヴィジョンに基づいて定めたら、その次に個別のマスタープラン。じゃあセンター広場のこの一角は何がいい？公務員宿舎の後は何がいい？個別に具体的な話に入っていく。

その三段階でまちづくりを進めたいなと思っている。そういいながら、一方でクレオの問題であるとか、このビルの問題であるとか、緊急のものもあります。今すぐ始めなくてはいけないものもあるのでヴィジョンと並行して個別に進めるものもあるが、大きくはこういう流れを作って、ありたいところを目指していく。

ということで私のヴィジョンは「世界のあしたが見えるまち」。世界中で少子高齢化が進んでいますけど、こういった課題解決のお手本を世界に示すまちでありたいと思っていて、こういうヴィジョンを掲げています。

今回、３つのコンセプトとそれに対応する将来像を設定しました。

□リラックス×遊び心

□科学技術の恩恵×新たな価値の創発

□ローカル×持続可能性

この３つの柱がコンセプトで、順番は順不同です。

一つ目の将来像が「魅力と驚きが散りばめられ、訪れたくなるまち」です。今、中心市街地に、とにかく来たいなあと思う方、どれくらいいます？何はなくても遊びに行きたい！という方？

(会場：挙手少ない)

お１人。これが現実です。

ではどういうことをするかというと、イメージですが、「買い物に行きたくなる充実した店ぞろい」であったり、「一日中過ごせるサードプレイス」、ペデがあったり広場があったり、図書館があったり、ふらっと来て１日過ごせる場所である。

「プレイスメイキングにより、魅力が散りばめられた歩きたくなる街並み」。よくわからないかもしれませんけれども、とにかく楽しさがここにはある。

実は今度、プレイスメイキングとして中央公園でカヌーに乗れるようにしようかなと思っています。カヌーは落ちたら危ないからボートにしよう、そんな話をしています。例えばそんなちょっとした工夫、ボルダリングをしてみたりバーベキューをしてみたり。

それから「遠くからでもみんなで出かけたくなる文化芸術イベント」。遠くからでもとにかくセンター地区に行ってみようと。素敵なものを聴こうとか、一流のものを味わおうとか、市民のものを味わおうとか、そういう場所にしたい。スポーツから入っていってもいいです。

それから「駅前で豊かな食体験」。地元の食材を使って、味わえる機会をもっと増やしたい。例えばこういうようなことです。

二つ目の将来像が「科学技術が日常に溶け込み、イノベーションが生み出されるまち」です。イメージとしては、「多様なコミュニティが絡み合い、イノベーションが起きるクリエイティブスペース」や「知的刺激やアイディアを得られる場所」。いろんな形でいろんな人が、カフェで仕事をしたり、BiVi でもいろんな講座をやっていますが、もっといろんな知的刺激がセンターに来ればあるよというイメージです。

「科学技術が活用され、日常に採り入れられているまち」。例えばロボットが手を引いておじいちゃんを案内してくれる、そんなまちでありたい。

それから研究学園都市ですから、「研究成果が新しいビジネスにつながるスタートアップの拠点」として、研究成果がちゃんとビジネスにつながる、始まっていくような場所を中心市街地に作りたい。

更に、「日常が科学教育環境」として、子どもたちのSTEAM教育つまり、理系教育＋Artですが、これに力を入れていこうと思っており、そういうようなことを中心市街地でもっと出来る場所にしたい。

三つ目の将来像が「地域に根差した持続可能なまち」です。私は国連の持続可能な開発目標 SDGs を市政の中心に据えていて、先日、持続可能都市ヴィジョンを発表しました。持続可能というのは何よりも大きなテーマの一つですので、そんなことも考えていきたい。

「つくいち」なんていう市を始めまして、それも「地域の生産者と消費者が出会うマーケット」なんですけど。もっと日常的にマーケットをやっている場所があったりするとよい。

「緑豊かな自然あふれる街並み」。自然が大事だし、緑の多さこそこの地区の価値だと思っています。緑地率ではなく緑視率なんていいますけれども、目に入る緑がどれだけ多いかが与える影響は大きいと思っています。

「歩行者や自転車にやさしいまち」。自転車でばんばん移動できるようにしたいなと思いますね。

「充実したオフィスやコワーキングスペースがそろい、多様な働き方ができるまち」。なんだかんだ商業業務地区ですから、働く場として充実していることが大事。コワーキングスペースだけでなく、オフィスももっと充実させていきたい。

「あらゆる世代の交流が健康につながるまち」。おじいちゃんおばあちゃん、こどもが一緒にヨガをやる、そんな場所もいいんじゃないかな。

今、バーッと話しましたけれども、あくまでも案でして、明日以降パブリックコメントをホームページで募集しますので、ばんばんお寄せください。今日いただいたご意見ももちろん反映させていきたいと思っています。

それから、今後なにをするかについてですが、こういうふわふわした話だけでは怒られますから、ちゃんとまじめにやっているということをお話しします。立地適正化計画というものの策定を進めておりまして、この計画は今後のつくばのまちづくりの大きな方針を決めるものになるわけですが、いろんな議論があった中で、ただ一つ、つくば駅周辺だけを都市機能誘導区域に設定しました。なぜかというと、つくば駅周辺こそが市の核であって、ここの体制を何とかしていく。そのために補助金などもつけやすくするために都市機能誘導区域に設定しましたので、そういう中で取り組んでいきたいと思っております。

どうもありがとうございました。

（司会）

ありがとうございました。

ここで３色のコメントカードの説明をさせていただきます。先ほど３つのコンセプトをお示しいただきましたけれども、コンセプトごとの色で分かれております。カードのテーマに沿って皆さんの思いを自由に書き込んでいただければと思います。なんでも結構です。

例えばオレンジ色のカードですと、「遊び心を満たすもの」として、コンサートと思ったらコンサートと書いていただいて結構ですし、もっと具体的なものでも結構です。「リラックスする場所」として美術館など、思いついたものを自由にお書きください。コメントカードにつきましては山崎さん、藤井先生のお話の後、第２部でこの意見をもとに使わせていただきたいと思っております。聞きながらということで大変恐縮ではありますが、自由な意見をご記入ください。休憩時間に係員が回収にまいりますので、よろしくお願いします。

つづきまして、つくば市まちづくりアドバイザーで、前ポートランド市開発局国際事業開発オフィサーの山崎満広氏にポートランドのまちづくりをテーマにお話しいただきます。お話をいただく前に山崎さんについて、改めてご紹介させていただきます。

山崎さんにおかれましては、本県ひたちなか市のご出身で、1995 年にアメリカに渡り、南ミシシッピ大学で国際企業誘致などについて学ばれました。2012 年にポートランド市開発局に入局されます。数々の企業誘致や地場企業の輸出戦略開発などに携わり、国際事業開発オフィサー等の職を歴任されてこられました。

また、柏の葉スマートシティキャンパスなどポートランドの都市デザインの手法を日本に輸出するプロジェクトも日本各地で精力的に展開されてきていらっしゃいます。昨年 6 月には都市戦略コンサルタントとして、独立起業され、昨年 7 月につくば市のまちづくりアドバイザーにご就任頂いております。

それでは、山崎さん、よろしくお願いいたします。

（山崎氏）

今日はポートランドの紹介というよりもポートランド市の事例で今、つくば市が取り組んでいるこのヴィジョン作りでどんな風に参考になるか、どこがかぶさるのかなというところをプレゼンテーションさせていただきたい。

ポートランドは住みやすくて有名ですが、今日つくばに着いて、午前中からイベントの準備がされていて、広場もにぎわっていて、こどもたちが噴水で遊んでいて、いい感じなんです。クレオが潰れたら衰退して大変であるといったような、メディアに取り上げられている状況とはだいぶ違うなと思ったんですね。なので、そんなに参考になるものはないかもしれないですが、簡単に説明させていただきます。

まずは時間がかかるんです、ということ。

モノによって、例えばファッションとかアートとか商売、ビジネス、インフラ、市の統制、行政、文化あとは自然。自然が元々あったところにまちができました、というのはどこのまちも一緒です。ただつくばは若い。その上に競争でちょこちょこ変わっていかなきゃいけないんですね、服とかファッション、アートとかよく変わります。数ヶ月で変わりますね。それについていって商売っていうのも上半期下半期、1 年 2 年で変わっていきますよね。その下にインフラがあって、商売がしやすいように道であったり、人々が生活しやすいように水道や下水道があったりしますよね。そういうものは一回敷いたら 10 年 20 年、長いと 50 年持たなければならないわけですよね。それよりも、市の統制をするというのは時間がかかるものなんです。だからちょろちょろやっていてはダメなんです。一回、方向を決めたらバシッと 5 年 10 年腰据えてやらなきゃいけない。そのどこを目指すかっていう部分がヴィジョニングなんですね。北極星みたいなもんです。ヴィジョンを決めてそれがその瞬間みんなが一番いいものだと納得して、そこに向かっていきますよと。それから戦略を立てて実行プランを立ててやっていくということが重要。なので、昨日決めたから、去年決めたから、今年どうなってんのとか文句言ってる場合ではない。それはまだ始まったばかりだから押し続けなければいけない、そういうことだと僕は思います。

ポートランドもそういう時期がありました。過渡期だったのが 60 年代の終わり。アメリカで一番公害が進んでいたまちですから必死こいてやりました。どういう方向を目指すか。汚いからきれいにしようだけでもよかったし、このままでもしょうがないけど商売を伸ばすためには工業頑張ろうという方向もあったんですが、ここから舵切をして、このままでは自然が廃れてしまうから環境都市を目指そうと 180 度転換したのがポートランドです。

それで今に至る訳ですが、当時は夕方になったら人が寄り付かなくて、麻薬のディーラーとかがいて危なかったんですね。人々はなるべく用がない限りダウンタウンに近づかない、こういう中心地だったのが今はアメリカで一番住みやすいまちなんていわれている。そういう変革を経たわけです。それには 40 年以上かかっていますから、そのスパンを考えながらいろいろ行動すべきです。

そのなかですごく重要なのが、市民の意見を反映させる、または市民が実行にあたって参加してリーダーシップを取り始めることが大事なんです。こういう状態になった時、ポートランド市民は立ち上がったんです。それがよかったんです。アメリカの他のまちではあいかわらず衰退していくまちが多いんですが。アメリカでは、市民の参加がグングンぐんぐん下がっている。60 年代に国が助成金を出して、中心地に活力を得ようと国の政策でやって、お金を出して人を呼んで、いろいろワークショップもやった。当時、アメリカ平均では 21%の人口がそういうことに年に一回は参加しましたという統計が残っています。その後、ポートランドは 22 から 25%、31、35%と過去 40 年くらい上がっているんです。他のまちは 4%。2%というところもあります。人々がまちとの触れ合いがない、ただ単に上から降ってくる政策に乗って伸び悩んでいる。

ヴィジョンというのがスライドのグランドヴィジョンで、1972 年です。環境を戻す、プラス、中心地に人が住んで働いて遊んで食べて楽しい空間を作ろう。8 時から 5 時までじゃなくて 24 時間タウンを作ろうっていう目標で作りました。昔はこんなだったんですね、白いところは全部駐車場で車が停まってます。それを憩いの場だらけの素敵なダウンタウンにしていこうという努力をしました。

これが一番最近のヴィジョン作りから実行までの年表ですが、2008 年にヴィジョン作りをしました。2008 年から 2010 年の 2 年間かけて、当時は 55、6 万人くらいの人口だったんですが、約 2 万人の方に意見を聞きました。その意見を集めて計画をつくるんですが、ここが戦略づくりです。それをどうやって実現しようかといって総合計画が上がってきて、総合計画の実行計画が上がってきて、微調整が入ります。

この 6 年から 10 年のスパンでひとくくりでやってます。このあと 2015 年にチェックが入ります。ほんとにそれが上手くいっているのか。そして、また新しいヴィジョンづくりを始めました。このヴィジョンは作り終わってもうすぐ議会に上がってくる、そういうタイミングです。ヴィジョンから実行までの計画を上げるのにはそれだけの時間がかかる。もちろん並行して、手を打たないといけないことはいっぱいありますよね。そういうことをやりながら、こういうことをしないといけない。沢山の専門家が携わってやっています。

そのなかで、必ず行われるのがこういうワークショップなんですね。専門家の方がお話しするという形じゃなくて、みんなで座談会をする形です。話し合いながら絵を描いたり、写真を持って来てこんな風にしたいってそういったことをやりながら、実際に自分たちが住みたいような空間やイメージをどんどん具現化していく。そういったワークショップをします。

そのワークショップの柏の葉版がこのビデオなんですが、

（柏の葉ワークショップのビデオを流しながら）

この方は東京大学、千葉大学の学生ですね。話しながら絵を描いています。この方は自治会の方で、全体的に確認をします。この方は子供を守る会の会長さんです。

今の部分が、ヴィジョンが出来てからの戦略づくりの部分です。マスタープランをつくって、それに向けて開発を進めましょうという。戦略を作る部分でこういう会を何回も開きますが、実際に実行する時の各地区のデザインですとか、空間のデザインというのはまたそれは別で何回か会をやりますね。地元の本当にそこに住んでいる方々が普段の生活で困っていることや欲しいもの、アイディアをどんどん取り込んでいって、空間づくりをしていく。そうして自分たちが住みやすい空間を作っていく。参加していただかなくてはいけない。

ポートランドはわりとインフラが整っています。自治会が 95 ヶ所あって、それを支援している 7 ヶ所の地域連合があって、ヒエラルキーが出来上がっているわけです。普段からこういう経路で意思決定がされていきます。市がやりたいことと、市民が欲しいものができる協業の仕組みがある。これはつくばにないわけじゃなくて、ただもうちょっと活発にコミュニケーションをとっていかないといけないかもしれないですね。それを支えるための予算とか人材を抱えている部局みたいなのがあって、市役所の外局にあたるんですが、専門家を抱えている開発局がある。そこが行政でもあって、うちは

マンションしか建てないぞというような不動産開発業者ともやりあって、マンションだけど 1 階には交流できる空間を作り、ある程度賑わいが生まれるような都市のデザインにしてもらうということを、ちゃんとお金と影響力でコントロールできるんですよね。なぜかというと市民がそういうものを欲しがっているという伝達をするわけです。あなたのお客さんが欲しがっているからこういうことをやるべきですよ、うちはある程度予算がありますから一緒に作りませんかということをします。そういうことをしながらまちができていくというのがポートランドのパターンです。

どうやって荒廃地域を再開発していくかっていうヴィジョンというかミッションをもっていて、こういう戦略を見える化して、例えば中心地はこういうことを目指すんだ、雇用が集中するだけじゃなくてどういう雇用なんだ、どんな事業者がくるべきなんだ、なにができるべきなんだということを考えましょう。あとは、中心地のすぐ外のネイバーフットにはどういうものがあるといいのか、その地区にふらっと行ける商店街が必要とか、小さい企業の方々ががんばって事業を継続できるような仕組みが必要とか、スタートアップ企業をどうやって支援するかとか、そういうことを見える化してヴィジョンの下に戦略として持っていて実行していく。色がついているところが荒廃地域ですが、それがなくなっていくということを 40 年かけてやってきた。

それに対しても、地方債権を発行して将来から前借する資金繰りの仕組みも持っている。単年度 5000 万でこういう事業をやりましょうということを、20 年後を目指して、今 50 億使いましょう、今 20 億使いましょうってどんどん大きな事業を始めて、何年も何年もかけて一つのことをやり続ける、それが並行的に行われる。そういった取組みがないとまち自体がずっと変わり続けていけないんですね。40 年はかかるので。プレーヤーが変わっても長期目標に向かって動かなきゃいけないのでこういった仕組みが必要です。

最後にどうやって一つの建物が再生できるか。完全に西武と合致しているケースではないですが、例えば、事業者が入ってきます、彼らは自分たちの資金として 4 割負担して足りない部分はローンで借りるんですが、他は全部、官のお金。前借した市の開発資金と、歴史的建造物を直したり、省エネ機器をいれたり、雇用のないところに雇用を生んだりということで、税控除としてインセンティブをもらってお互いさまでやっていく。公の部分の投資があるから、ここに新しく雇用が生まれ、事業者が入り、経済的な活力が生まれる、みたいなことをわざわざ仕掛けている。プロデューサーみたいなことをやっているところが PDC（ポートランド開発局）なんですね。

時間をかけてじっくり戦略を作って実行するまでをきちっとやらなければならない。そのやり方の全部に、毎回のステップごとに市民の意見が入っていくというのが成功の素だとぼくは思いました。

（司会）

ありがとうございました。つづきまして筑波大学准教授、藤井さやか先生に中心市街地の現状をテーマにお話をいただきます。

藤井先生の紹介をさせていただきます。藤井先生は、幼少期より筑波研究学園都市で過ごされ、まちの変化を体感されてまいりました。筑波大学、東京大学で都市計画を学び、博士号を取得後、母校である筑波大学の教員として都市計画やまちづくりをご専門に研究教育に取り組まれておられます。つくば市におきましても日頃から都市計画やまちづくりに関するご助言、ご協力を頂戴しております。

それでは藤井先生、よろしくお願いいたします。

（藤井氏）

みなさん、こんにちは。ご紹介いただきました筑波大学の藤井です。よろしくお願いいたします。私の方からはみなさんとヴィジョンを考えていく前に、中心市街地の現状を、センター地区は誰もいなくなっちゃったよね、みたいなイメー

ジが市民の中に浸透してきているのを感じているのですが、今日もここにいらっしゃる間に見ていただいたように、そうではなくて、ところどころに皆さん集まっている場所があったりしますし、そういうことをデータを含めてお見せしたいと思います。

先ほど市長の方からもつくば市がどう変遷してきたか紹介がありましたが、センター地区の写真を用意してみました。見ていただくと、ここ、いま私たちがいるセンタービルが造られる予定の土地の状態ですが、ここがクレオ。建物かと思ったら林の状態で。この写真は、ちょうど 1980 年につくばが概成、つまり、研究学園都市として完成しました、といわれた時期なんですけれども、実はそのときにはまだセンター地区はなくて、ここから 5 年の間につくば万博の開催に向けて、一気にセンター地区に商業施設がでてくる、そういう状況でした。つくばが出来て 45 年ですけれども、実際このセンター地区は 35 年くらいしか経っていなくて、その間にすごい浮き沈み、変化を遂げています。

ポートランドが 43 才と仰っていましたけど、それよりも若くして激動の人生を歩んでいるので、これからは、もう少しいい形で皆さんと一緒に育てていきたいなと思います。

これが 90 年代後半ですが、まだ駅ができていない状況なのでちょっと違いますけれども、ここがクレオですね、クレオと三井ビルが出来ていて、ここが私たちのいるセンタービルです。Q't のところが駐車場だった時代もあります。このセンタービルにマクドナルドがあった時期とかですね、いろんな変化を経て今に至っています。

じゃあ、今どうなっているのか。こちらの地図、色が薄くて申し訳ないのですが、センター地区の中で黄色のところですね、公務員宿舎とかクレオとかも色がついていますが、土地利用が大きく変更しようとしているところがこれだけあります。たぶんこれでも抜けているところがあります。ピンクのところが既に建て替わっているもので、紫色のところには筑波大学や吾妻小学校といった公共施設があって、公園がたくさんある、という状態です。中心市街地でみてみるとわかるのですが、これだけ土地が大きく、今、変化の途中にあって先ほどのポートランドの、駐車場がいっぱいある状態から変化してきた状況と、ある意味共通するのかな、つくばにとってもここからがまちづくりかなと思います。

こちらのスライドは、先週、センターには本当に人がいないのか？ということでビデオを撮っていただいたものです。

（ビデオを見ながら）

人、いらっしゃいます。今日もいらっしゃいましたから、西武のような大きな目的地はないんだけれど、中心部として全然だめかいうとそうではなくて、このビデオでもわかるような、こういう人の流れみたいなものをどう活かしていくかというのがこれからのまちづくりの大事なところだと思います。

データ的に現状を分析したところも昨年、一昨年、やってきましたので、その結果を一部お話したいと思います。

何をしたのかというと、中心市街地について、人通りがほんとにないのですか？というのを、通行者の数を数えたり、西武の利用者は西武がなくなった後どこで買物しているのか、今後来てくれるのか、そんなところを調査しています。

調査としては、まず通行量調査として、みなさんもしかしたら見かけた方もいらっしゃったかもしれませんが、学生と一緒にペデ上に座りましてカチカチとカウントをしたり、ビデオを撮ってずっとまちなかを歩きまして、どこに人がいるのだろうというのを地図上にカウントしていったりしています。また、アンケート調査として、ウェブアンケートを使って、皆さん、西武が閉まってしまったあと、どういうお買物をしていらっしゃるのかというところをお聞きしています。

皆さんが歩いている様子をこの 6 地点で調べました。

1　図書館とセンタービルを結ぶ橋の上
2　BiVi の隣の大きな階段の行き来
3　つくばセンター広場と西武の間の橋の上
4　さくら大橋
5　Q't と MOG の間の駐車場側

6　常陽銀行にむかっていく橋の上

この交通量の６地点というのはつくば市とつくば都市交通センターでも毎年調査をしておりますので、2011 年からの変遷を見ることができました。

見ていきますと、グラフは、地点１図書館とセンターを結ぶ橋の上で、2011 年、西武の閉店前、後という形で並んでいますが、そんなに激減した印象はありません。同様にこちらの地点４ですね、さくら大橋の南北の通行量もあまり変わってない。南北に動く人たちっていうのは、そんなに大きく変化はしていない。ではどこが変化したのかというと、地点３つくばセンター広場と西武を行き来するところが、主に休日なんですけれども、西武閉店前はすごく多くてガクンと減っている。閉店前は皆さん駆け込みで来ていた可能性もあるので、その前の年から見ると一時期よりは下がっているんですけれど激減というのか、ちょっと微妙な数値かなと思います。地点５駐車場と西武を行き来するところは確かに減りました。ロッテリアの前でとっていたんですけれど、ロッテリアの店長さんも私たちがカチカチしていると何人ですか？と心配されていまして、お店としても変化をすごく感じてらっしゃるようです。

西武直近のところは人通りが減っているというのが、はっきり数字でも確認できましたが、一方で南北の通りは皆さんいままでどおりちゃんと来てくださっている。こういう人の通行のあるところはしっかり考えていく必要があるのかなと思っています。

一生懸命、つくば市も筑波都市整備もセンター地区活性化協議会もいろんな方がこの地域なんとか盛り上げなきゃとたくさんこの１、２年間の間にイベントをやっています。この交通量調査をやっていると、ものすごい人が多い時間帯があって確認すると、英語の試験があった日、アンパンマンショーの日とか、一時的に人がたくさん来ていて。ただお気づきのように 30 分するといなくなってしまう。イベントだけ来て帰ってしまう。もし、せっかく来た人たちがこのあとちょっと周りで遊んで行って下さったりすれば、だいぶ違うんですね。せっかく捕まえることができている一時的な人たちをどれだけ長く楽しんでいただけるかといったところが必要だと思います。

あともう一つの調査では、ビデオでまちの様子を撮って、どこに人が散らばっているのか調べる調査もやりました。こちらがペデ上、こちらは道路沿いをぐるっと歩いてずっとビデオを撮ったものです。赤いところは西武の閉店前から後に向かって人がちょっと増えたところ、黄色ところは維持しているところ、青いところは減っているところです。

こちらも同じ結果で、こちらは何とか持ちこたえていたりとか。場所によっては１階部分ですと、人がちょっと増えているところもありますので、人通りを上手く捕まえることが大事かなと思っています。

じゃあ、どうやって人の流れを捕まえたらいいか。「お店が欲しい」という声はすごくあって、オープンハウスとかでも一番欲しいのは百貨店と出ていましたが、市全体のお店の量ってどれくらいあるんだろうということを調べてみました。１人当たりの売り場面積がそれぞれの市でどれくらいあるのかをグラフ化していくと、つくば市はここにいます。人口規模の割には１人当たりの売り場面積が多い群のところにいて、これよりさらにお店を増やしていっても収益が厳しい関係にあります。大きな規模の都市で（店舗が）少ないところだと売場面積を広げていけるんでしょうけど、つくばは飽和に近い状態で、センター地区を商業施設で何とかしようというのは難しい状態です。

また中心市街地への来街頻度の変化を調査しています。実際に西武閉店前にどれくらい来ていましたかと聞いているんですけれど、西武閉店前は半分くらいの人が月に 1 回以上来ていて、半分くらいの人が年に数回しか来ないかなとおっしゃっていましたが、閉店後は年に数回もしくは来ないという人がちょっと増えて、イオン閉店後さらにそれが増えて、半分を超える人がおそらくもう中心市街地には来ないかもとおっしゃっています。ここ、今いるこちらの人（ほぼ毎日来る人）を大事にしながら、こういう人（ほとんど来ない人）たちが来たくなるところをどうしたらいいのか考える必要があると思います。

最後に、西武以外に一緒に利用していたところはどこですかと聞いたグラフです。つくば市外から今までセンターに来て下さっていた方では、3割以上の方がもう中心市街地には行かなくなるかもしれないといっているのですが、つくば市内の人たちはたとえ西武が閉まっても、その後イオンも閉まっちゃったんですけど、イオンとかリブロとか Q't には行かないかもしれないけれども、それ以外の場所には行くと回答しています。例えばデイズタウンとかヨークベニマルとかホテルとか駅とか日常的に利用しているのでここは行きますというふうに答えて下さっているので、ここと先ほどのヴィジョンにあるような、いろんなスポットを作っていくというようなことが繋がっていくといいなと思います。

じゃあどんなものが欲しいのかというのを見たものですが、市庁舎分室とか、スポーツジムとか大型図書館、それから温浴施設、常磐線駅へのLRT、百貨店などが挙がっていますが、百貨店とLRTは難しいかもしれませんが、体験できるところだったり、市役所の分庁舎があるとうれしいなという声が集まっています。

さて、ここから後は私の方で進行させていただきます。本当はお一人お一人に手を挙げて質問していただきたいんですけれど時間も限られていますので、今回、コメントカードの方法で意見を交換させていただきたいと思っています。

皆さんに3つの点について考えて書いていただきたいと思っています。つくば市が本日案を公表したヴィジョンについて、市からこういう内容ですとお伝えしたところですが、もう少しイメージを皆さんと共有したいので、お手元のコメントカードの記入をお願いしています。

それと、それをどうやって実現するのというところですね。質問したい方がたくさんいらっしゃると思いますので、最後、いくつかこういうところはどうですかというのを私の方から質問する時間をとってまとめにしたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いします。

第二部

司会　それでは、お時間となりましたので始めさせていただきます。ここからは、第2部として、藤井先生にモデレーターをお願いしまして、コメントカードの意見などをもとに山崎さんや市長とともにディスカッションする場にしたいと思います。それでは、藤井先生よろしくお願いします。

藤井氏　引き続きよろしくお願いします。ここからは皆さんのコメントカードを読みながら私から質問を投げかけて進めていくわけなんですけれども、皆さんすごくたくさん書いていただきました。今がんばって整理をしているので、先にこれまでの話のなかでもうちょっと具体的に地域のことを考えていけるようなお話を伺っていきたいと思います。

はじめに、ヴィジョンでは3つテーマがあったと思いますが、「Relax × Fun」について、特にこういうところで市民の皆様とどういう取り組みをしたいかとかですね、市長のほうで考えてらっしゃることがあればもう少し補足で伺いたいのですが。

市長　はい。やっぱり楽しくないと人は来ないと思うんですね。お説教されるところにはいきたくないように、ここに行くと喜びやわくわくがあるというようにしたい。ヴィジョンではサードプレイスという言葉を使っているが、家でもなく、職場でもない第3の場所という意味ですけど、そういう場所にふらっと行きたくなる。今日やることないけど中心市街地に行けば何か楽しいことがあるんじゃないかというような期待感であったり、子供連れで、孫を連れていってみようかなと、あるいは久しぶりにデートに行こうか、そういう風にここに行けるような魅力を散りばめていきたい。その目的地が、例えば西武ではなくて、センター地区といえる、そういう場所になることが大事。何か大きな商業に頼るのではなくて、あちこちに魅力があり、アートやボルダリングだったり、そういう場所にしていきたいと思っています。

藤井氏　今いくつか（コメントカード）をいただきました。文化とか美術館とか、今もあるんですけど、もっと博物館とか、コンサートを聴いてそのあと食事をしたりとか、つなぎで楽しめるような、そういう場所ってできないんですかというご意見があります。スポーツに関するご意見も結構あります。体験に関するコメントカードが今一番多いですね、そういうアイディアはどう思いますか？

山崎氏　体験重視にするのは重要で、特にこれからの開発は 10 年後、20 年後にとても影響を与えると思う。先を見て考えると百貨店に買い物に行く人も少ないし、現金を持ち歩く人も少ないし、今まで当たり前だったことがこれからは当たり前じゃなくなっていく。そういった意味では、移動の行為は目的に当たる。買い物に行ってものを運ぶというのは目的に入らなくて、そこで楽しむ行為、例えばコンサートでもいいし、スポーツでもいいし、お祭りでもいい。そのあとの連続性がある、多様性のある場所というのが大事だと思いますね。

市長　マクドナルドの話がさっきあって、マクドナルドがあったときは、コンサートのあとのマクドナルドは大行列だった。流れを次から次へと作っていけるかというのはすごく大きい。

藤井氏　先ほどのデータを見ていた中でも、アンパンマンショーがあった後にそのあとちょっと食事してというのがないというのはそういうことだと思います。スポーツでもコンサートでも、そのあとどんなことをしていくんだろうということをつなげて考えていくことが大事ということですよね。

つくばらしさに関するアイディアで、公園とか自然に触れるのもつくばの楽しみ方としては大事じゃないかといった意見も多くいただいています。あとは本とか図書館とか、教育的なところ、子供だけじゃなくて大人が楽しめる図書館とか、そういう声もたくさんいただいています。この点はどうですか。

市長　中心市街地には自然がある、緑があるというのはすごく大きくて。今スノーピークというアウトドアメーカーにフィールド調査を依頼してまして、今日本で一番キラキラしている会社なんですけれども、彼らは中央公園にとても魅力を感じていて、キャンプやバーベキューができるようにしようとか、最近は議会でプレイパークについて質問いただくことも増えていて、あまりルールを決めずに、自己責任で遊べる場所のことですけれども、そういう場所としても魅力的だと思っている。

本についても、つくばの人たちは本が大好きで、そのつくば市民のニーズに応え得る本屋とか図書館とか、これはこれで考えていきたいと思っていて、今その準備をしています。

藤井氏　さっき絵のなかに移動図書館が公園の中に来ているイメージがありましたよね。

山崎氏　そういう柔軟なところがあったほうが良い。中心市街地は広いから、一ヵ所にあるのも寂しいし、こういう融通が利くようなことをたくさん取り入れたほうが良いと思います。あとはほしいものをいくつも束ねる、図書館なんだけどおいしいものが食べれるとか、みんながスポーツした後に楽しめる場所があるとか、グランピングが流行っているから都市でキャンプできるとか、そういう意味では魅力的と思う。あとは市民の皆さんが何をやりたいかを聞くことが大事。

藤井氏　中央公園でキャンプができるとかそういうイメージということですか？もしそういう場所があったら皆さん行ってみたいですか？中心部でキャンプしたい方はいらっしゃいますか？

（会場：数人手を挙げる。）

バーベキューだったらどうですか？

（会場：半数程度手を挙げる）

バーベキューからスタートして、楽しくなったらそのまま泊まるといったこともあるかもしれませんね。

ぞくぞくとカードが届いていますけれども、まだたくさんありますね。カフェやマーケットなどはやはりたくさんあります。市民が自由に出店できるところがあるといいなとか、つくばはパンのまちなのでパンのおいしい店があるといいなとか、自転車でサイクリングの途中にカフェに寄りたいとかありますね。いかがでしょうか。

市長　今土浦に自転車の拠点ができて、そこがとても魅力的なので、なんでこんな魅力的なのかと責任者の方に聞いたところ、ポートランドを真似しましたと言っていた。自転車も好きな人が多いし、あそこにできたことはつくばにとっても良いことだと思っていて、土浦から筑波山のりんりんロードに行ってもらって、帰りはつくば駅から乗り捨てて帰ってもらうとか。そういう広域でとらえたらよいと思う。つくば市だけが一人勝ちしようとか、そういうことではなく、広くいろんなリソースを組み合わせていくことで、可能性ってもっと広がると思う。
つくば駅前にも自転車の拠点があったらおもしろいなとか、ぼくも自転車が好きでよく乗るので。

山崎氏　たくさんそういったインフラは作っていくべきと思っていて、ポートランドで自転車が流行ったのは単に自転車が好きな人が多かっただけではなくて、企業側も事務所に自転車置き場とシャワールームやロッカールームを整備してあげた。そうすると日々使うものになる。そういう場所は駅前にも必要だし、外側にもあったほうが使いやすいし、筑波山に行く途中にもあったほうが良いかもしれないし、やっぱりそういうインフラの整備をしていくのが重要だと思う。
なるべく市民の好きなようなアイディアで、デザインでできれば、地元の人もより使いやすいだろうしね。

藤井氏　今日自転車でここにいらっしゃった方ってどのくらいいらっしゃいますか？
（会場：数人手を挙げる）

山崎氏　すごい。

藤井氏　今日は有料の駐輪場に停めてきている方が多いと思います。もしサイクリングが楽しいと思えるような、そういう場所が合わせてあれば、今日はこのシンポジウムだけでなく、もっと色々立ち寄れるのかもしれないですね。

藤井氏　次のテーマのカードが届き始めましたので次のテーマに移りたいと思います。次は「Science Technology × Innovation」というテーマです。横文字でかっこいいんですが、説明がもう少し必要なテーマかと思います。今一番手元にあるので多いのは、科学とか研究成果をもっと日常に活かせないだろうか、というものですね。大学とか研究機関の成果がもっと市民に触れられればいいのにとか、最先端技術のショーケースとか、研究成果の地域への還元とか。そういうところがもっとあってもよいのかなというのがたくさんありますね。

市長　つくばのメリットとなる部分ですので、やっていきたいですね。去年市民意識調査というのに初めて「あなたは科学のまちであることの恩恵を感じますか」という質問を入れたんですね。会場はどうですか？感じますか？
（会場：少数）
ありがとうございます。５名ということで、もうちょっとあったんですけど、感じないという方がこの調査では５割以上であった。これを見ますと、市民の生活レベルに科学技術が落ちてくるとか、そこで融合されている実感を持つ機会がなあまりかったんだろうし、逆にいえば日本のどのまちにもそれが実現できているところはない。どこができるかというのもつくばしかないと思っているので。ヴィジョンにはイラストを描いてもらいましたけれども、ロボットが走り回っているのもわかりやすいかもしれないし、そんなテクノロジーを感じさせないくらい、世

の中のほうがスマートに形成されていくとか、そういうまちになっていってもよいのかなと思う。自動運転もしかりですけれども。

つくば市の友好都市に深センという都市がありますけれども、ここでは徹底的にスマホがあればなんでもできる都市になっており、当たり前にみんなキャッシュは持たないところまで来ている。そういうテクノロジーもそうだし、まさに研究成果を見せるような場所もほしいなと。エキスポセンターもあるけれどもあれはちょっと種類が違うので。今後は研究機関の皆さんとも相談したいなと思っています。

藤井氏　コメントカードの中にも、エキスポセンターのバージョンアップのような声も届いています。山崎さんもここがつくばらしさの一番出せるところだよということを以前仰っていただいたと思うんですけれども、つくばは科学のまちと感じるところってどういうところですか。

山崎氏　ロボット特区の看板しか見ていないので、それは実物が見たいなと思いました。

つくばのまちの基盤が科学技術、テクノロジーから始まったというのがあると思います。イメージと現実のギャップが大きいとそれはがっかりされるだろうけれども、市民から見ると日々過ごしていていきなりテクノロジーが入ったからなんなのということではなくて、市民がこういうことが困っているけれどもテクノロジーが解決してくれないかしらというように使われるのが本当のつくばらしさにつながると思う。

ぜひやっぱり色々な意見をあげていただきたい。普段こういうことに困っているということとか、アプリ作ってよつくば市さんとか、どうですか。

市長　まさにそれをやるために、去年新しく政策イノベーション部という組織を作って、そこの部長は文科省から出向して来てくれている神部さんという人なんですけども、まさにつくばの科学技術という生活の部分をつないでいく役割を担ってほしいと思っています。今 Society5.0 という超スマート社会に向けて、例えば遠隔アプリの開発とか、よりテクノロジーを生活に近づけていくということを、意識している組織を作りましたので。

横文字の組織名は止めてくれと言われたんだけれどもこればかりは日本語にできない。そして、政策は市民にちゃんとつながっているんだということを示すためにこうしました。

藤井氏　皆さんからのコメントの中で、市民活動とか、市民参加として科学のところを一緒にやりたいというのがたくさん集まっていますので、やはり皆さんの中でもそういう思いがあるんだろうなというのがわかります。

その時に研究者の人たちが、つくばってよく考えると研究所のある場所が車で 10 分、15 分いったところで、中心部にはない。大学のキャンパスもあるけれども歩いて 10 分以上かかるところで、（中心市街地に）学生が常にいるような雰囲気でもなくて、研究所の人が学生などと中心部で交流できるような環境が必要だというコメントもたくさん来ています。ヴィジョンの中にもそういう思いが入っているのだと思いますが。

市長　例えばこういう場所（イノベーションプラザ。シンポジウムの会場）なんかに研究者が日常的に来て研究の話をしていただくだけでも全然違うと思う。どうしてもこういう箱って閉じちゃっているからあれだけれども、科学のまちって研究者がたくさんいるが、研究者と市民の接点がないというのはすごく課題です。それをうまくミックスさせるような機会を仕掛けとして作っていきたいと考えています。

藤井氏　ポートランドってその辺が上手というか、市民の生活のリズムをくみ取ってスタートアップにつながって動いているような気がするんですが、誰がそれをつないでいるんですか？どうしてそういうつながりが生まれているのですか？

山崎氏　たくさん事例があるわけではない。ただ地元の企業がうまくいっていることを行政も市民も支援するという、地元らしい動きがあって、これ最近いいらしいよという話が回ってくる、関係のない人のも回ってくるし、地元の人たちは地元のものを買うことに誇りを持っているので、地元の野菜を買うし、地元の会社がやったアプリ

を使うし、地元がデザインした靴を買うし、そういったことを常日頃やっている。地域のものを大事にしていこうよというのがすごく重要なんだと思う。

藤井氏　受け身でいるだけではなくて、自分たちも購入するということですね。

山崎氏　ポートランドの人は自分たちのことをポートランダーと呼ぶ。そういう風にそこに住む理由とか誇りを外に表すというのを、意外と普段の会話に入れていくんですよね。僕もそれを受けて自分が身に着けているものはなんとなく日本の会社のものかポートランドのものになりつつある。

藤井氏　それで思いましたけれども、つくばって転勤の方が多くて、外から来た方が多いと思うんですけれども、つくばで生まれ育った方って今日どのくらいいらっしゃいますか？

（会場：少数）

ちょっと少ない感じですね。あ、市長もそうですね。

市長　竹園二丁目で生まれました。

藤井氏　ポートランドの方って、外から来ている人でも地元を大切にする意識が高いのですか？

山崎氏　何年いたらポートランダーになれるかっていうのはないんですけれども、本当に昔から住んでいる人っていうのは少ないですね。アメリカ人は文化的に 7 年に一回各家庭が引っ越すんですよ、なので移動が多い。そういう意味では新参者が多いんですが、ポートランドの特徴は新しい方々がわざわざここに住みたいから引っ越してくる。だから仕事でといった理由じゃなくて、ここに住みたいから越してくる。

藤井氏　そういうところがうまくいってここに住みたい方が来るようなところになったら、今は何かご縁があってつくばに来た方が多いと思いますが、そういう方がつくばを好きになっていくような場所になったらよいですね。

藤井氏　ちょうど今話が「Local × Sustainability」の話題になったところで、次のテーマに移ります。このローカルのなかには地元を大事にするという意味が込められているんですよね。

市長　はい、そうなんです。ローカルロイヤリティとかいろいろな言葉を考えて、まあローカルでいいやということにしたんですけれども。

山崎氏さんの話じゃないですが、例えばこのチノパンはライトオンのものです。ただつくばで生まれたもの、根付いたものってもっともっと広げていきたい、と思う。例えば毛塚副市長に言われたもので、つくばの農産物を使っている店に行こうとしてもないじゃないですかと言われていて確かにと思う。今度市では地産地消を推奨していこうとしている。地元のものを一定以上使ってくれた人を認定して、市もバンバン PR していこうと、それを持続可能で地域で循環するという意味で、「つくばサステイナテーブル」という名前の制度を考えている。このお店なら地元のものが食べられるというのがわかるように、皆さんがお店を選ぶときに決められるリストが当たり前のように手元にあるようにしたいと考えています。

藤井氏　伺っているとポートランドもそのような感じですよね。

山崎氏　ポートランドの特に飲食業界はとても厳しくて、ニューヨークよりも一人当たりの店が多い状況。だから種類がたくさんあるので、地元のものを使っていないというのは論外。単にポートランドだったら有名なのは鮭、じゃなくて、この時期だったらこの種類の鮭が美味いとか、そういうこだわりで、それを食うのがクールという感じです。

市長　ポートランドだと確かに、このチキンどこのものなのと聞いて、え、ポートランドのものじゃないの？というのが当たり前の場所になっている。つくばでも、つくばのものを使っていないメニューがあれば、それを市民が指摘するようなところになったらよいと思う。

藤井氏　ローカルのところにはないが、カフェとかマーケットにもそのようなことを書いてくださった方がいて、つくばのものが楽しめる店がほしいとか、そういうご意見をたくさんいただいています。
一方で、つくばって外国の方とか、いろいろな文化を持った方がいらっしゃるというのもつくばらしさでもあって、多様性といったご意見もあるが、その辺の両立というか、つくばのものといろいろな人がいるというのをどういうふうに考えたらよいでしょうか。

市長　そうですね、そこはちょっとこのヴィジョンからは表現として抜けているかもしれないですね。これを書くときに世界の人も地元の人も働ける中心市街地とかもあったりしたんですが、世界中から人を寄せるのと同時に、つくば市の周りからもつくばに働きに出るようなそういうのもほしいと思ったし、多様な働き方でそれを全部表現してしまったんですが、つくばには9000人くらいの外国の方がいて、それって日本の人口規模とかでみると圧倒的に多様な話で、しかもこのエリアだけで８％くらいいるんで、すごい多様な訳です。そういうのも含めてつくばのローカリティっていうのは多様性っていう表現もできる。もちろん世界のお店が並んでいるのもよいし、だけどピーマンはつくばのピーマンを使っているような。

藤井氏　そうですね、それで思い出しましたけど、この一個前の話題の「Science Technology × Innovation」のところで、クリエイティビティがどこから生まれるのかという研究成果があるのですが、多様性の中で、色々な価値観とか考えの中で生まれてくる、色々なニーズがあったときに新しい技術や考えが生まれるという報告があります。（クリエイティビティが生まれるには）多様性っていうのは欠かせないです。ちょっと前に、全国の成長ランキングのようなもので、つくばが結構上位にありましたよね。

市長　3位。潜在力で、それはつまり形にできていないとこ3位みたいなものなんだけど。

藤井氏　そこの要素もよく見ていくと、多様性っていうのもつくばの要素として入っていましたよね。
一方で、つくばの地元の人もつくばの中心で働けるようにといった意見もあります。（皆さんのコメントの中に）学園都市の地域と元々の地域との融合も大事なんじゃないかというご意見もありますのでご紹介させていただきます。

藤井氏　最後、この緑のカードで他よりも一番多いと思われるものをご紹介します。つくばのローカル×持続可能性でやっぱり大事にしたい、「子供たちに残したいものはなんですか」という質問に対して、「自然、緑、閑静な環境、緑が多い街並み」が、これだけたくさんきています。それについてはどうお考えですか。

市長　そこは今年もすごく大事にしていて、今担当課を困らせているんだけど、樹木ガイドラインを何とか作ろうとしています。もちろん大きくなりすぎた木をどうしようかとか、落ち葉が大変だったりとか、いろいろな課題があって、僕が残してくれと言っても現場では切ってくれというような意見もたくさんあったりもするわけで、そことのせめぎあいで大変なんですけども。さっき緑視率の話をしましたけれども、単に芝生があるだけじゃない、特に中心部の魅力っていうのは、育ってきた木が目に入ってきて、視界の中に緑がたくさんあるということが大きな価値であると思っています。どうやって既存の高木を守っていくか、そういう基準を次の段階の目標とか戦略では入れていきたいですよね。
そういう意味では緑視率という概念はやりようがあるのかなと思う。これ次第で中心部の魅力が全然違うと思う。

山崎氏　すごく的を得ていると思います。こないだ都市の居心地よさランキングというのがあって、ポートランドが上位に入ったんですけども、何を基準に決めているのかというデータを見たんですが、都市に過ごしているときに居心地の良さは何かというと、緑なんですよ。なんで緑かというところにミソがあるんですけど、緑があるところは空気が良くなりますし、暑い日は気温が下がるし、音も減ります。音がうるさいところだからニューヨークシ

ティなんかは全然低い。ポートランドは緑があるから車もすぐそばにないし。においも大切で、緑のにおいってあるじゃないですか、日本の言葉で森林浴ってあるでしょ、あれって今国連でも取り上げられているくらいで、やっぱり緑ってすごく大事なんです。

落ち葉とか電線とか、ある意味そういった人間の都合で成長した木をバンバン倒していくっていうのは問題であると僕は思います。

藤井氏　ありがとうございます。先ほど公園を「Relax × Fun」のところにまとめちゃったんですけども、公園で森林浴して楽しみたいという声もたくさんいただいておりましたので最後になりましたが、紹介しておきます。

藤井氏　それでは、あと 10 分くらいありますけれども、最後に、今日説明のあったヴィジョンにもとづいて、今後まちづくりをどうやって進めていくのか、実際に中心部をどうしていったらよいんだろうというところについてお聞きします。今日会場にいらっしゃる人の中には「中心部、これからどうなるの？」と思ってきた人がたくさんいらっしゃると思います。ヴィジョンの絵の中には楽しそうなイメージがたくさんあったと思うんですが、これをどう作っていくのか、実現するのにどういうことをするのかちゃんと聞いておきたいので、いくつか私の方で代表して聞きたいと思っています。

まず、市長のプレゼンの中でもありましたが、ヴィジョンには、市民の皆さんからこれまで聞いた意見を反映していると説明がありましたが、これまでの調査や取り組みとの連続性がどうなっているのか、皆さんの声がヴィジョンにどう反映されていて、今後どう反映されていくのか聞きたいです。

市長　今までも市民の方から本屋とかスーパーとか百貨店は聞いていて、そのコンセプトとなるものはこのヴィジョンに反映されています。百貨店とかスーパーとか直接的には書かないが、その一歩先にあるものを書いています。

具体化するステップが大事なので、つくば市の最上位計画に未来構想というものがありますけれども、その総合計画の見直しというか、書き換え作業を始めたところです。先ほど少し話をした立地適正化計画ですとか、色々な計画を具体的に作りこんでいるところでもありますが、それにもこのヴィジョンがまずないことには始まらないと思っているので、今回このように集まっていただいている。

一方で、プレイスメイキングという、カヌーとかバーベキューをできるようにするというのも、できれば今年の秋くらいから実験的にでも始めたいと思っています。大きな箱ものじゃなくても中心部でこんな楽しめるんだという、経験とか実験というのを今年どんどん始めていきたい。中身は詰めているところです。両立させながら進めていきたいなと思います。

藤井氏　総合計画から、今度は実際に事業につなげるための計画を繋ぎつつ、小さな取り組みは進めていくということですね。山崎さんからワークショップの様子などお見せいただきましたが、これからつくば市はどのように進めていくのが良いでしょうか。

山崎氏　今の時点ではヴィジョンを明確にして共有するということで、市民の方に伝えてちゃんと作りこむというのが大事。よくヴィジョニングのワークショップでやるのは、色々な手法で意見を出してもらうんですが、ダイナミクスにかけると思う。東京じゃないからとか、じゃなくてよいので。茨城ではつくばしかないと思ってほしい。もっと外を見たら輝いている場所はないので、北関東の星になるつもりでやったほうがいいと思う。それくらいしていかないとみんなで動くときに長続きしなければ、なんの特徴もなくなる。

本当にそれを具現化するまでの変化っていうのがあって、その変化を作っていくのが皆さんのとがった意見なんです。100 人いて 100 枚のとがった意見、500 枚の同じ意見じゃなくて、そういう意見をたくさんもらって、こっちなんかまとまんないよってくらいのほうがやりやすいでしょ。それが今日の段階。実際戦略作って実行

するときには、またこういうことを繰り返して、俺のとがったアイディアどこまでいったのかなというのを楽しみにしていただきたい。

藤井氏　その期間ってどのくらいのスパンを想定していらっしゃいますか？

山崎氏　そんなに長く今の流れのままやる必要はなくて、5 年ひとくくりとかのスパンでやって見直し見直しでもよい。

藤井氏　5 年では技術の変化もすごいし、まちのあり方もすごく変わると思う。

市長　やっぱりこれをいつというのもちゃんと考える必要がある。それは、皆さんと考えましょうという話。2025 年、2020 年…そのへんを共有したいわけです。その辺を共有して、ヴィジョンに引っ張っていってもらうまちにしたいわけです。そのためには、皆さんがワクワクしたりここに行きたいと思わなければいけない。だから皆さんに意見をもらっていて、これは宝物ですよね。熟読します。

藤井氏　すみません。敢えてもう一回聞きます。クレオとか、シェーキーズもライトオンもそうです。公務員宿舎もそうです。中心市街地内には大きく変わろうとしているところがたくさんあって、課題も山積みです。こういったところをどうしていきましょう。どこから手を付けていきましょうか。

市長　手をこまねいている状況でもなくて、色々取り組みをしていて、クレオについてまず話をすれば、筑波都市整備という所有者が売却したがっているわけですけれども、まだ売却先が見つからなくて、色々苦労しているなかで、議会にも表明したが市としても色々関与していくつもりで動いている。クレオに 2 フロア市のものを入れていくということを呼び水にして、民間を呼べないかと思ったがそれでもなかなか集まらない中で、全部市が借りる、市が買う、一部市が買う、市が借りるなど、あらゆる可能性について考えているところです。ヴィジョンをもって、クレオをどういうものが理想的かというのを前向きに考えたいと思っています。

今までだと公務員宿舎も売られてマンションが建って、マンションを否定しているわけではないけれどもマンションが必要なエリアっていうのはあるのに駅に近いエリアにマンションが建っている。国家公務員宿舎を所有している財務省にも働きかけをして、この街区をどうするのかをヴィジョンを並行しながら考えていく。この 1 年くらいに方向性を出していくことを、議会にお示ししながら、緊急のものはどんどん進めている。今打ち合わせも密にやっておりますので、頑張ります。

◇参加者の声

【コメントカードより】

参加者にコメントカードを配布し、中心市街地まちづくりヴィジョン（案）として提示した３つのコンセプトについて、次のようなコメントカードを配布し、参加者とイメージの共有を図りました。

リラックス×遊び心 （79 枚） ▷わたしは休日に○○に遊びに行きたい	**科学技術の恩恵×新たな価値の創発** （77 枚） ▷つくばの価値を高めるために○○が必要です	**ローカル×持続可能性** （76 枚） ▷子どもたちに残したいつくばらしさは○○です

【参加者アンケートより】

参加者アンケートでは、51 人の方からご意見を頂きました。時間的な制約がある中ではありましたが、市長が直接専門家とヴィジョン（案）を語るシンポジウムに対して、好意的な声を多く頂きました。一方で、ヴィジョン（案）の実現や実効性の担保等について、行政への期待や要望の声も寄せられました。

❖ つくば中心市街地まちづくりヴィジョン（案）パブリックコメント

平成 30 年 5 月 21 日から 6 月 15 日までの間、「つくば中心市街地まちづくりヴィジョン（案）」について、意見募集を行った結果、36 人（団体を含む）から 120 件の意見の提出がありました。これらの意見について、適宜要約した上、項目ごとに整理し、それに対する市の考え方をまとめ公表しました。

日　時：平成 30 年 5 月 21 日（月）～6 月 15 日（金）
資　料：つくば中心市街地まちづくりヴィジョン（案）
　　つくば中心市街地まちづくりヴィジョン（案)の背景・経緯等
意見受付：直接持参、郵送、FAX、電子申請、電子メール
意見数：36 人 120 件

❖ 参考資料　市民意向の把握に使用した様式

1/2 ページ

◆中心市街地を魅力ある街にするための アイディア募集（様式）

いばらき電子申請・届出サービス 【つくば市】

様式管理

プレビュー つくば駅周辺のまちづくりビジョンを作成します。皆さまのアイディアをお聞かせください。

つくば駅周辺のまちづくりビジョンを作成します。皆さまのアイディアをお聞かせください。

※印があるものは必須です。
▲印は選択肢の結果によって入力条件が変わります。

	性別 選択解除	あなたの性別を以下の選択肢から選択してください。 ○ 男性 ○ 女性
問1	年齢	あなたの年齢を以下の選択肢から選択してください。 ☐ 20歳未満 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70歳以上
問2	お住まい	あなたのお住まいを以下の選択肢から選択してください。また，記入欄には町丁目や市町村，都道府県名を記入ください。 ☐ 市内（町丁目名を記入ください） ☐ 県内他市町村（市町村名を記入ください） ☐ 県外（県名を記入ください）
問3	つくば駅周辺への来訪頻度	あなたがつくば駅周辺にどの程度訪れているかを以下の選択肢から選択してください。 ☐ 毎日 ☐ 週に数回 ☐ 月に数回 ☐ 年に数回 ☐ ほとんど行かない ☐ 行ったことが無い
問4	つくば駅周辺で取り組むと良いと思うこと ※	つくば駅周辺で取り組むと良いと思うアイディアをご自由にご記入ください。 例えば ・こんな建物や施設があったらというアイディア ・このようなイベントなどを開催したらいいのにというアイディア ・こんな交通手段などがあれば行きやすくなるというアイディア ・ここを少し直せばもっと良くなるのにというアイディア など，様々な視点のアイディアをお寄せください。

入力文字数：0 / 2000

閉じる

【操作に関するお問合わせ先】
お問合わせコールセンター
TEL ：0120－464－119
（平日 9:00～17:00 年末年始除く）
FAX ：06－6455－3268
電子メール： help-shinsei-ibaraki@s-kantan.com

【各手続き等の内容に関するお問い合わせ先】
直接担当課にお問い合わせください。

◆中心市街地のまちづくりに関する意向調査（中心市街地従業者対象）（様式）

いばらき電子申請・届出サービス 【つくば市】

様式管理

プレビュー 中心市街地で働いている方へのアンケート

中心市街地で働いている方へのアンケート

※印があるものは必須です。
▲印は選択肢の結果によって入力条件が変わります。

	性別 ※ 選択解除	あなたの性別を以下の選択肢から選択してください。 ○ 男性 ○ 女性
問1	年齢 ※	あなたの年齢を以下の選択肢から選択してください。 ☐ 20歳未満 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70歳以上
問2	働いている（職場がある）地区 ※	あなたの働いている地区を以下の選択肢から選択してください。 ☐ 天久保一丁目 ☐ 春日一丁目 ☐ 吾妻一丁目 ☐ 吾妻二丁目 ☐ 吾妻三丁目 ☐ 竹園一丁目 ☐ 竹園二丁目 ☐ 東新井 ☐ その他
問3	お住まいの地区 ※	あなたのお住まいを以下から選択してください。 ☐ 市内（中心市街地：天久保一丁目，春日一丁目，吾妻一～三丁目，竹園一・二丁目，東新井） ☐ 市内（その他の地区） ☐ 県内他市町村（市町村名を記入ください） ☐ 県外（県名を記入ください）
問4	平日のランチについて ▲	平日のランチはどこで食べていますか。以下の選択肢から選択してください。 ※最も多い場所をお答えください。 ☐ 社内の食堂 ☐ 社内で弁当を購入 ☐ コンビニ等の店で購入 ☐ 職場外の飲食店 ☐ 家から持参したお弁当など ☐ その他（具体的に記述ください）
問5		平日のランチのおおよそいくらくらいであるか以下の選択肢から選択してください。

	ランチにかける費用 ▲	☐ 0～500円 ☐ 500～1,000円 ☐ 1,000～1,500円 ☐ 1,500円以上
問6	職場周辺の商業施設の買い物について ▲	職場周辺（つくば駅周辺）の商業施設でどれくらい買い物をしますか。以下の選択肢から選択してください。 ☐ 毎日 ☐ 週に3，4回 ☐ 週に1，2回 ☐ 月に数回 ☐ ほとんど行かない
問7	日用品の買い物について ※	生鮮食品や生活用品はどこで購入していますか。以下の選択肢から選択してください。 ☐ つくば駅周辺（職場周辺） ☐ 通勤の途中（つくば駅周辺以外） ☐ 自宅の近く
問8	つくば駅周辺で利用する公共公益施設 ※	あなたがつくば駅周辺でよく利用する公共公益施設を以下の選択肢から選択してください。（3つまで選択ください。） ☐ つくば中央図書館 ☐ 吾妻交流センター ☐ つくばカピオ，ノバホール ☐ つくば国際会議場 ☐ 筑波学園郵便局 ☐ 常陽銀行 ☐ 筑波銀行 ☐ つくば中央警察署 ☐ その他（具体的に記入ください。）
問9	つくば駅周辺で利用する民間施設 ※	あなたがつくば駅周辺で利用する民間施設を以下の選択肢から選択してください。（3つまで選択ください。） ☐ クレオスクエア ☐ オークラフロンティアホテルつくば ☐ ライトオン ☐ デイズタウン ☐ ヨークタウンつくば竹園 ☐ カスミフードスクエア学園店 ☐ その他（具体的に記入ください）
問10	つくば駅周辺で課題だと感じていること ※	つくば駅周辺において課題と感じていることを下記の選択肢から選択してください。（3つまで選択ください。） ☐ 商業施設（飲食含む）が不足している ☐ 公共交通などの移動手段が少ない ☐ 公務員宿舎の廃止などにより空き家が多い ☐ 治安が悪い ☐ 緑が不足している ☐ 交通渋滞が発生している ☐ 街灯が少ないため夜が暗い ☐ ペデストリアンデッキが使いにくい ☐ 交流する場が少ない ☐ イベントなどのアミューズメント機能が無く余暇が楽しめない ☐ 子育て支援の場や子どもが集まれる場が少なく子育てがしにくい ☐ 業務施設が少ない

		☐ 公共施設が少なく必要なサービスや手続きが行いにくい ☐ 駐車場が利用しにくい，不足している
問11	中心市街地の今後の役割について ※	あなたが好ましいと考える今後の中心市街地の役割について，以下の選択肢から1つ選択ください。 ☐ 商業や滞在型施設などが多く立地し活気があふれている街 ☐ オフィスが多く立地するビジネス中心の街 ☐ 住宅が中心の閑静な街 ☐ 文化施設や公共施設が多く立地する公的機能が中心の街
問12	中心市街地にあったら良いと思う機能 ※	あなたが中心市街地にあったら良い，利用したいと思う機能を以下の選択肢から選択してください。（3つまで選択ください。） ☐ 市の窓口 ☐ 保育所 ☐ 科学技術の体験，展示施設 ☐ アミューズメント施設（映画館など） ☐ デパ地下のような食料品店 ☐ 運動施設（フィットネスを含む） ☐ カフェ，オープンカフェ ☐ 温浴施設 ☐ つくばの有名な食を集めたフードコート ☐ 子どもが遊べる施設 ☐ インキュベーション施設 ☐ 商業・飲食施設 ☐ ホテル ☐ その他（具体的に記入ください） ☐ アリーナなどの大規模なホール ☐ 大規模な図書館 ☐ その他（具体的に記入ください。）
問13	自由な御意見をお聞かせください	つくば駅周辺についてあなたが感じていることやこんなことをやってほしいなどの御意見を御記入ください。 入力文字数：0 / 500

閉じる

◆中心市街地のまちづくりに関する意向調査（中心市街地居住者対象）（様式）

いばらき電子申請・届出サービス 【つくば市】

様式管理

プレビュー つくば駅周辺にお住まいの方に今後の魅力向上に関する御意見をお聞かせください。

つくば駅周辺にお住まいの方に今後の魅力向上に関する御意見をお聞かせください。

※印があるものは必須です。
▲印は選択肢の結果によって入力条件が変わります。

	性別 ※ 選択解除	あなたの性別を以下の選択肢から選択してください。 ○ 男性 ○ 女性
問1	年齢 ※	あなたの年齢を以下の選択肢から選択してください。 ☐ 20歳未満 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70歳以上
問2	家族構成 ※	あなたの家族構成を以下の選択肢から選択してください。 ☐ 単身（一人暮らし） ☐ 夫婦のみ ☐ 親子 ☐ 三世代同居 ☐ その他
問3	お住まい ※	あなたのお住まいを以下の選択肢から選択してください。 ☐ 天久保一丁目 ☐ 春日一丁目 ☐ 吾妻一丁目 ☐ 吾妻二丁目 ☐ 吾妻三丁目 ☐ 竹園一丁目 ☐ 竹園二丁目 ☐ 東新井
問4	勤務地 ※	☐ 中心市街地（天久保一丁目，春日一丁目，吾妻一～三丁目，竹園一・二丁目，東新井） ☐ つくば市内（中心市街地以外） ☐ 茨城県内他市町村 ☐ 茨城県外
問5	居住年数 ※	あなたの現在のお住まいへの居住年数を以下の選択肢から選択してください。 ☐ 5年未満 ☐ 5～10年未満 ☐ 10～15年未満 ☐ 15～20年未満 ☐ 20～30年未満 ☐ 30年以上

問6	今の地区を住まいに選んだ理由 ※	あなたが現在の地区に住まいを選んだ理由を以下の選択肢から選択してください。（3つまで選択ください。） ☐ 教育・文化環境が良い ☐ 交通の利便性が良い ☐ 通勤・通学に便利 ☐ 日常生活が便利 ☐ 多くの施設が立地しており活気がある ☐ 中心部にもかかわらず緑豊かである ☐ 街並みが良い ☐ 治安が良い ☐ 家族が近くに居る ☐ 医療・福祉環境が充実している ☐ その他（具体的に記入ください。）
問7	日常の買い物について ※	あなたは日常の食料品や生活用品を主にどこで買い物していますか。以下の選択肢から選択してください。 ☐ クレオスクエア ☐ デイズタウン ☐ ヨークベニマル ☐ つくば駅周辺のその他の施設 ☐ 研究学園駅周辺 ☐ 並木，松代地区 ☐ 市内その他の地区・施設 ☐ 土浦市 ☐ 牛久市 ☐ 他市町村（土浦市，牛久市以外） ☐ 県外 ☐ その他（具体的に記入ください。）
問8	買回り品の買い物先 ※	あなたは買回り品（洋服，家電等）を主にどこで購入していますか。以下の選択肢から選択してください。 ☐ つくば駅周辺 ☐ 研究学園駅周辺 ☐ 市内その他の地区 ☐ 土浦市 ☐ 牛久市 ☐ 茨城県内他市町村（土浦市，牛久市以外） ☐ 東京都 ☐ 千葉県 ☐ 茨城県外（東京都，千葉県以外）
問9	余暇の行き先 ※	あなたは休日などの余暇に主にどこに出かけますか。以下の選択肢から選択してください。 ☐ つくば駅周辺 ☐ 研究学園駅周辺 ☐ 市内その他の地区 ☐ 土浦市 ☐ 牛久市 ☐ 茨城県内他市町村（土浦市，牛久市以外） ☐ 東京都 ☐ 千葉県 ☐ 埼玉県 ☐ 茨城県外（東京都，千葉県，埼玉県以外）
問10		あなたが良く利用する公共公益施設を以下の選択肢から選択してください。（3つまで選択ください。）

問11	よく利用する公共公益施設 ※	☐ つくば中央図書館 ☐ 吾妻交流センター ☐ つくばカピオ，ノバホール ☐ つくば国際会議場 ☐ 筑波学園郵便局 ☐ 常陽銀行 ☐ 筑波銀行 ☐ つくば中央警察署 ☐ その他（具体的に記入ください。）
問12	中心市街地の良い点 ※	あなたが中心市街地で良いと感じることを以下の選択肢から選択してください。（3つまで選択ください。） ☐ 商業施設などが集積し，活気があり便利である ☐ 公共施設が多く立地し便利である ☐ 鉄道やバスなどの公共交通が充実しており便利である ☐ つくばセンタービルなど特徴的な景観が創出されている ☐ ペデストリアンデッキが整備されており，安全に快適に移動ができる ☐ 中心市街地であっても緑豊かでゆとりある都市環境が創出されている ☐ イベントが行われており楽しい余暇が過ごせる ☐ 公園が多く整備されており，ゆとりある生活ができる ☐ 学校が近いなど高い教育環境が創出されている ☐ 様々な施設が集積しているので車がなくても生活できる
問13	中心市街地の課題 ※	あなたが中心市街地で課題と感じていることを以下の選択肢から選択してください。（3つまで選択ください。） ☐ 商業施設（飲食含む）が不足している ☐ 公共交通などの移動手段が少なく生活しにくい ☐ 公務員宿舎の廃止などにより空き家が多い ☐ 治安が悪い ☐ 緑が不足している ☐ 交通渋滞が発生しており生活しにくい ☐ 街灯が少ないため夜が暗い ☐ ペデストリアンデッキが使いにくい ☐ 交流する場が少ない ☐ イベントなどのアミューズメント機能が無く余暇を楽しめない ☐ 子育て支援の場や子どもが集まれる場が少なく子育てがしにくい ☐ 業務施設が少ない ☐ 公共施設が少なく必要なサービスや手続きが行いにくい ☐ 駐車場が利用しにくい，不足している
問14	中心市街地の今後の役割 ※	あなたが好ましいと考える今後の中心市街地の役割について，以下の選択肢から選択してください。 ☐ 商業や滞在型施設などが多く立地し活気にあふれている街 ☐ オフィスが多く立地するビジネス中心の街 ☐ 住宅が中心の閑静な街 ☐ 文化施設や公共施設が多く立地する公的機能が中心の街
問15	中心市街地にあったら良い機能 ※	あなたが中心市街地にあったら良い，利用したい，不足していると思う機能を以下の選択肢から選択してください。（3つまで選択ください。） ☐ 市の窓口 ☐ 保育所 ☐ 科学技術の体験，展示施設 ☐ アミューズメント施設（映画館など） ☐ デパ地下のような食料品店 ☐ 運動施設（フィットネスを含む）

- ☐ カフェ，オープンカフェ
- ☐ 温浴施設
- ☐ つくばの有名な食を集めたフードコート
- ☐ 子どもが遊べる施設
- ☐ インキュベーション施設
- ☐ 商業・飲食施設
- ☐ ホテル
- ☐ アリーナなどの大規模なホール
- ☐ 大規模な図書館
- ☐ その他（具体的に記入ください）

閉じる

【操作に関するお問合わせ先】
お問合わせコールセンター
TEL ：0120－464－119
（平日 9:00～17:00 年末年始除く）
FAX ：06－6455－3268
電子メール： help-shinsei-ibaraki@s-kantan.com

【各手続き等の内容に関するお問い合わせ先】
直接担当課にお問い合わせください。

◆中心市街地　パブリックコメント（様式）

いばらき電子申請・届出サービス　【つくば市】

様式管理

プレビュー「つくば中心市街地まちづくりヴィジョン（案）」パブリックコメント意見提出フォーム

「つくば中心市街地まちづくりヴィジョン（案）」パブリックコメント意見提出フォーム

※印があるものは必須です。
▲印は選択肢の結果によって入力条件が変わります。

個人・団体の区分 ※ 選択解除	意見提出者について，「個人」か「法人その他の団体」を選択してください。 ○ 個人 ○ 法人その他の団体
氏名 【個人のみ】▲	入力例）筑波　太郎 氏：　　名：
法人その他の団体の名称　【団体のみ】▲	入力例）筑波○○株式会社
法人その他の団体の代表者氏名【団体のみ】▲	入力例）代表　筑波花子
法人その他の団体の担当者名【団体のみ】▲	入力例）総務担当　筑波次郎

住所 （法人その他の団体の場合は，所在地を入力）※	入力例）つくば市研究学園一丁目1番地1

■ パブリックコメントに関する注意事項

パブリックコメントの意見を提出できるのは，以下の在住・在学等の区分のいずれかに該当する方です。

在住・在勤・在学等の区分 ※	次の中から該当するものを必ず選択してください（複数選択可）。 ☐ 市内に住所を有する者 ☐ 市内に事務所又は事業所を有するもの ☐ 市内の事務所又は事業所に勤務する者 ☐ 市内の学校に在学する者 ☐ その他パブリックコメント手続に係る事案に利害を有するもの
事務所名・事業所名【市内事務所等所有者・市内在勤者のみ】	「市内に事務所又は事業所を有するもの」又は「市内の事務所又は事業所に勤務する者」にチェックした方は，差し支えない範囲で御入力ください。 入力例）つくば研究所
学校名 【市内在学者のみ】	「市内の学校に在学する者」にチェックした方は，差し支えない範囲で御入力ください。 入力例）つくば○○大学

電話番号	意見内容の確認を行う場合がありますので，正確に御入力ください。 入力例）012-345-6789 または 0123456789

メールアドレス	意見内容の確認を行う場合がありますので，正確に御入力ください。 入力例）aa@bb.co.jp
メールアドレス（確認用）	

パブリックコメントの意見 ※	該当箇所（ページ番号等）を明らかにして，意見を入力してください。 入力文字数：0 / 2000

閉じる

【操作に関するお問合わせ先】
お問合わせコールセンター
TEL ：0120－464－119
（平日 9:00～17:00 年末年始除く）
FAX ：06－6455－3268
電子メール： help-shinsei-ibaraki@s-kantan.com

【各手続き等の内容に関するお問い合わせ先】
直接担当課にお問い合わせください。